

5

詰んでる

元悪役令嬢

ドS王子様

から逃げ出したい

は

〔原作〕うすいかつら
〔作画〕かーみら





詰んでる元悪役令嬢は

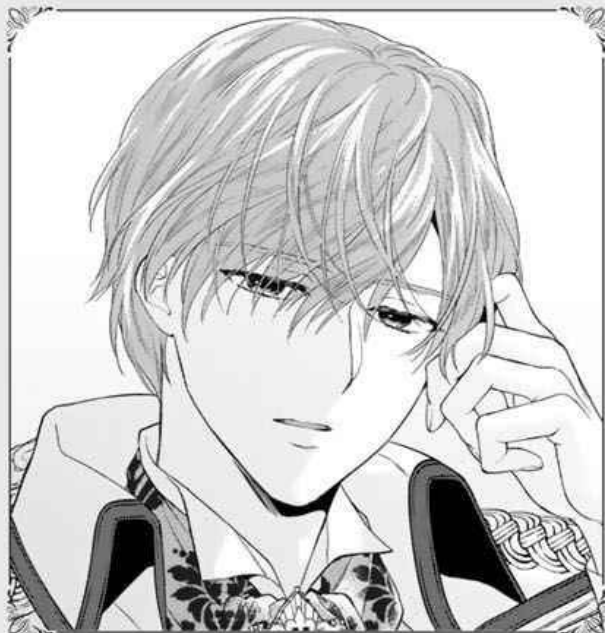
FSS 王子様から 5

逃げ出したい

〔原作〕うすいかつら

〔作画〕かーみら

ゲームの攻略キャラ



リーンハルト

クレス王国の王太子。真面目な性格だが、アンナの前ではDSになる。



カレル

クレス王国の守護獣。狼の姿にもなれる。


 Characters


アンネリーエ(アンナ)

乙女ゲームの悪役令嬢。しかし、中身はごく普通の社会人・杏奈。お人好しで、ちょっと抜けている。リーンハルトの妻として、必死にお妃修行中。



ヴェルンハルト

リーンハルトとアンナの息子。

エラ

アンネリーエに仕える優秀な侍女。





ヴィント

クレス王国の守護精霊。



バルナバーシュ

バルツァル王国の第二王子。
クレス王国に留学していた。



アヤ

アンナと同じ異世界転生者。
ルシアンのお屋敷のメイド。



ルシアン

王立学園の魔術講師であり、
触手研究者。

Story

18禁乙女ゲーム『クレス秘恋伝』の悪役令嬢・アンネリーエに転生してしまった、ごく普通の社会人・アンナ。夫であるリーンハルトとついに想いが通じ合い、息子ヴェルンハルトが生まれる。幸せ溢れるふたりは、甘い蜜月を過ごしていた。

一方で、魔女の弟子として森で暮らすアヤも、アンナと同じ異世界転生者だった。ところが、触手研究家のルシアンにメイドとして買われ、研究の手伝いとして、触手プレイを迫られることに……！ そんな中、ルシアンの提案で、『転生』の謎に迫るべく、とうとうアヤとアンナが邂逅することに——！?



Contents

第23話 005

✂ 番外編 3 ✂ 031

第24話 035

✂ 番外編 4 ✂ 075

第25話 081

第26話 107

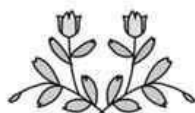
第27話 127

休載イラスト 166

書き下ろし小説

「詰んでる元悪役令嬢と
守護者の円卓」

167



第23話

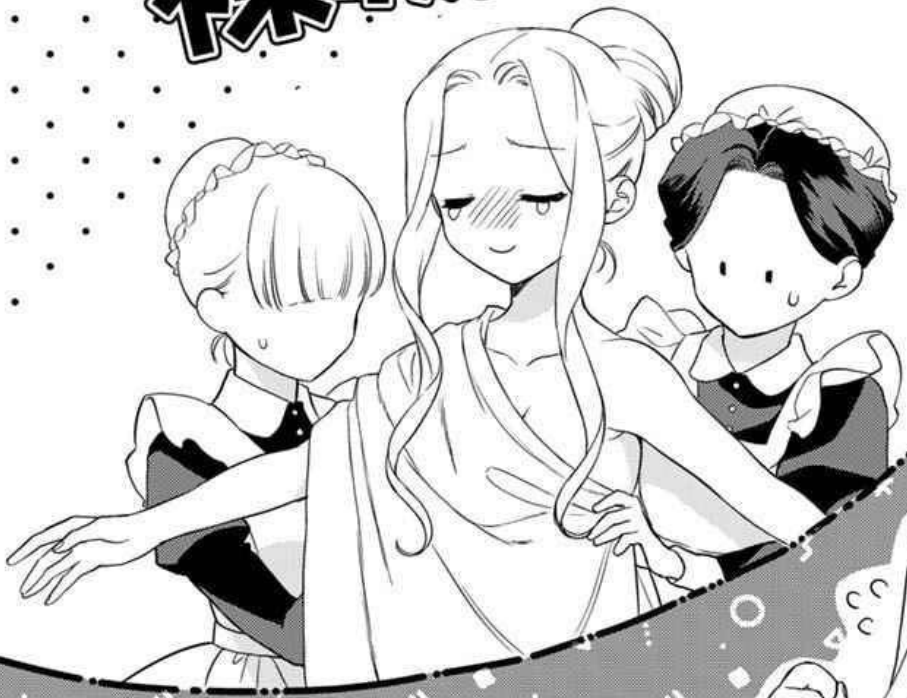


その格好は
なんだ

アンナ

シートソーガです
リンハルト様：

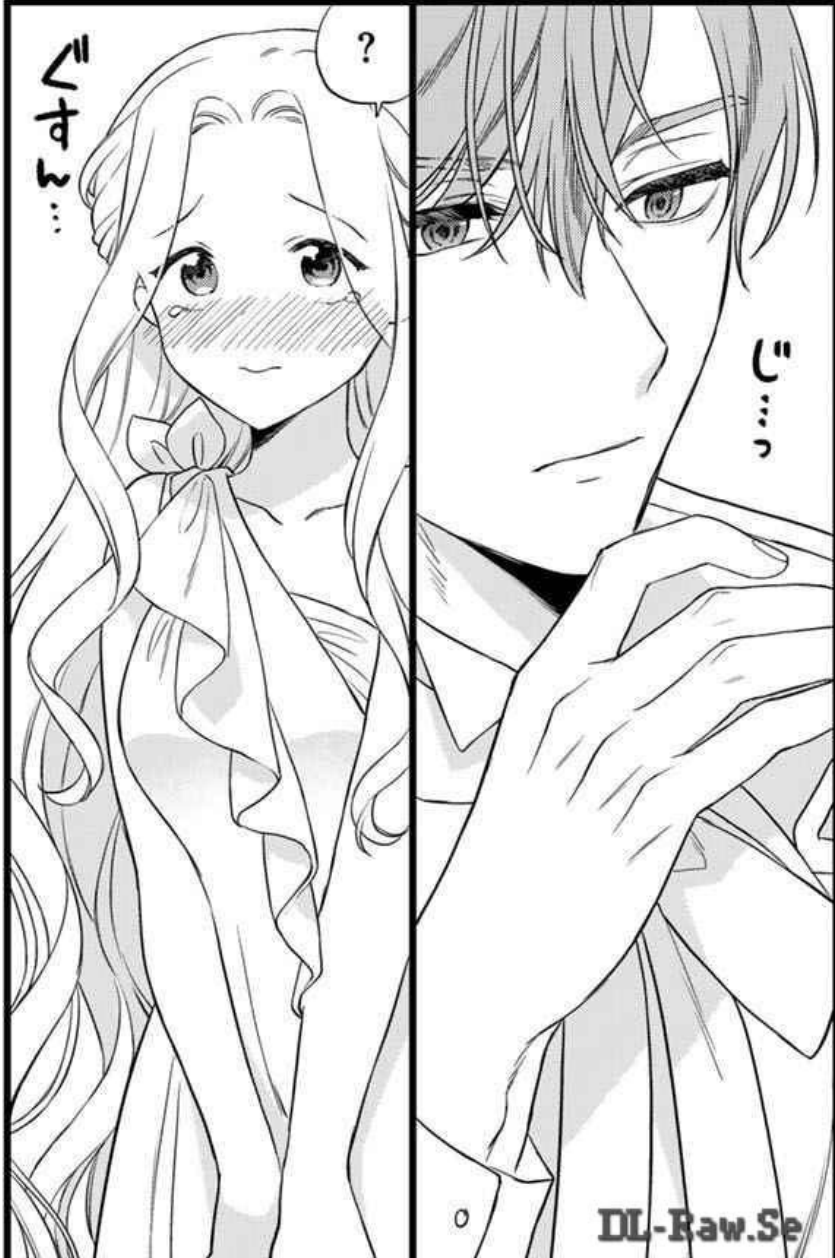
裸族回避!!



リーンハルト様が
服を全部撤去して
着るものが無かったから
メイドさんたちが
頑張って着せて
くれたんです!!

小動物が
頑張ってるのが
かわいいの図

す
す
す

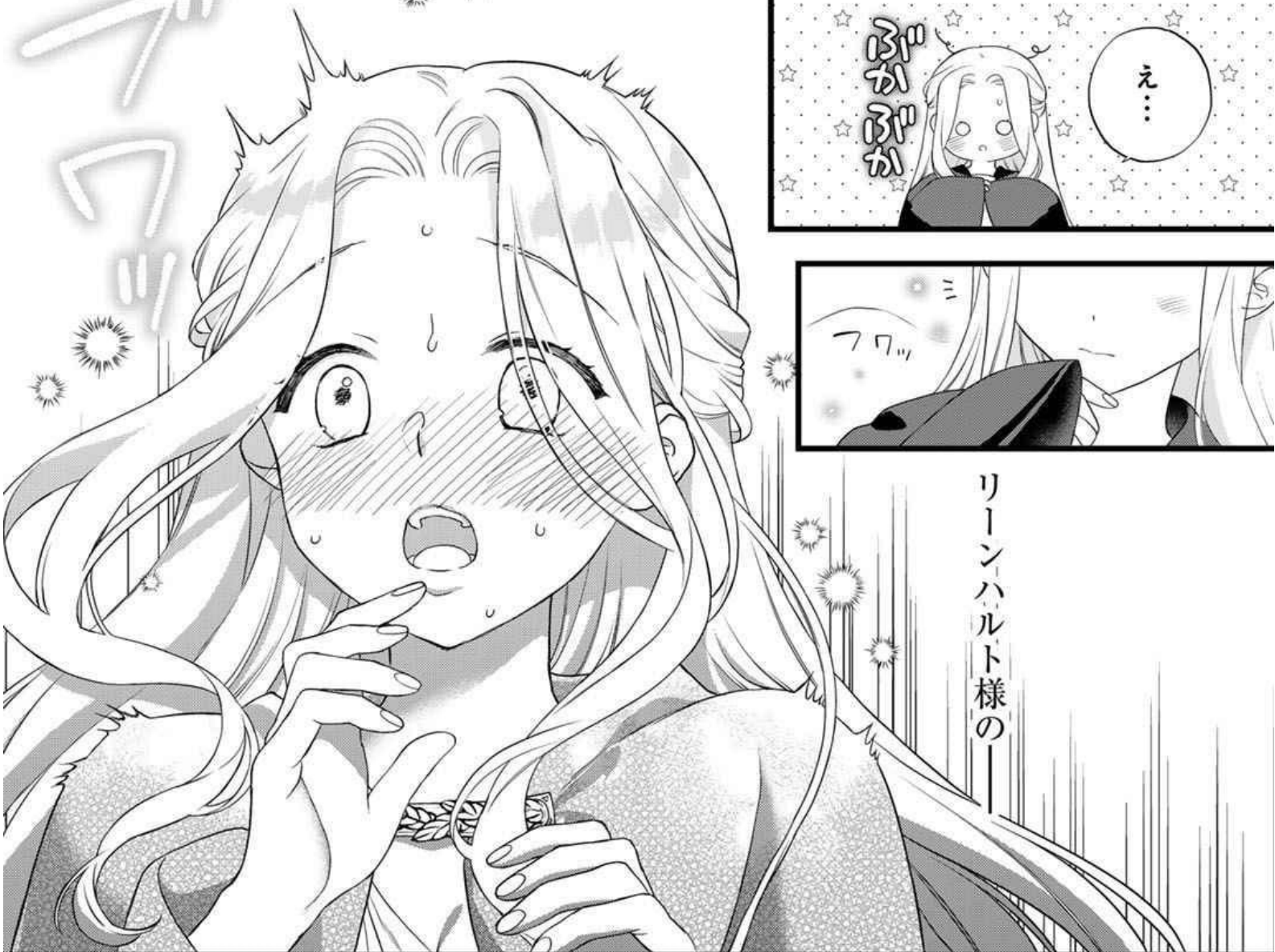


へ...?

?

じ...





ぶかぶか

え…



フワッ

リーンハルト様の



なっ何…!?

匂いだけで…

Blush Blush



アンナ

どうし…



あ…

(は)

あの…



ま...まだ

あのっ

お昼
ですよ...!?



そなたから
誘っておいて
何を言う

ニクニク



あれは…

うわ…



では先ほどの
あの顔は
なんだ

さっ誘って
なんて…っ



リンハルト様の
匂いを嗅いだら…

ドキドキ
して…



あ…

私のマントが
嫌なのかと
思ったが

私のマントが

逆のよう
だな

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

リンハルト様の
匂いだけで
こんなになるなんて…

あ

♡♡♡

ト

はーっ はーっ

わたし変態に
なっちゃった
の…!?



だめ…マント
汚しちゃう…っ

気にせずとも
よい

は…
は…

(は)
(は)



あ



脱ぎなさい
このようなもの

りっ
りっ
リンハルト様!?

脱



そんな...

マントだけ着て
するとか...

恥ずかし
すぎる...!

ダメだ

あの...
マント... 外しちゃ
ダメですか...?



似合って
いるぞ



は...
は...

うう...
似合に
たかな...



実に楽しいな

そなたの嫌がる
ことをするのは

スト
スト
スト
あッ
あッ
あッ



そんな
プレイしたく
ありません〜！



良い
格好だぞ
アンナ

110
110
110

110

110 110

110

110

110

110



なんだ？
そんなに
嫌なのか？



嫌…

いやあ…っ



そなたは
よく嘘を
つくからな

っ

ほら……

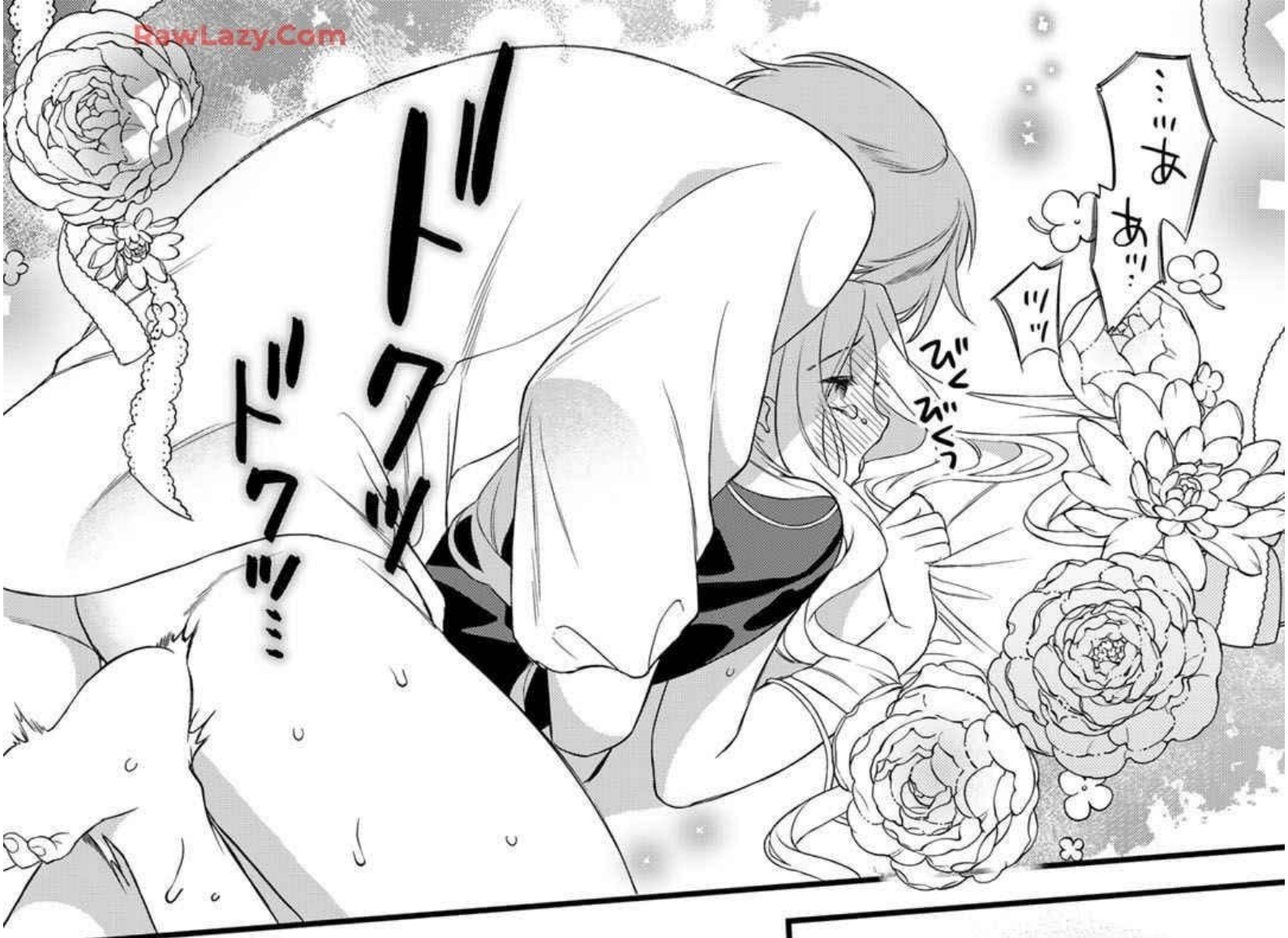


カラダは
正直ではないか

だって……

こんなに激しく
されたら……っ

おっおっおっ……!!



ドクツツ
ドクツツ

びんびん

あ...あ

あ...

マントですもの
癖になっちゃったら
どうしよう...

くっくっく...
くっくっく...

しんしん...

アンナ

これからは
シートツトガ
ではなく

マントを
着なさい





あつあの
 リーンハルト様は
 わたしと違って

裸族よりも
 嫌かもしれない！



さっきのを
 毎日しろと！
 裸マント!?



外にも
 出られるもので

マントを汚すのは
 良くないと
 思います！

じい



そなた

びくっ



≡∩∩≡
...
≡∩∩≡

嫌だからと
理屈を捏ねているの
ではあるまいな



まことか？

はい！



シキリシキリ

嬉しいまほー！

おまほー...
おまほー...



きやっ

まったく



嘘はよくないな
アンナ

……どうして
バレるの……



ちゅっ
はっ
あ

他に……

裸マント
しなくていいの!?

あはははは

だが……そうだな
明日は違う物を
用意させよう

え……

やあしら……!

どうしちやったの
かしら

何か
他にあるか?

えっ

ん……

グン グン

は、

畏!
!!

いや
いや……

あ
あ……

何を
考えて
いる?

キミ
♡♡♡♡♡



嘘はいけないと
言ったであろう

フイッ
なっ何も

フイッ

フイッ

フイッ



でも正直に言っても
お仕置きじゃ
ないですか...

ヴェルンハルトを
孕む前から

そなたの躰を
進めてきたが

リーンハルト様…

気を緩めると

甘やかしたく
なってしまうのが
困ったところだ

……そうだな
今日は許す

あ…
甘やかして
いいんですよ…



...それなら

あ...
えっと



何か希望があるなら
言いなさい

!



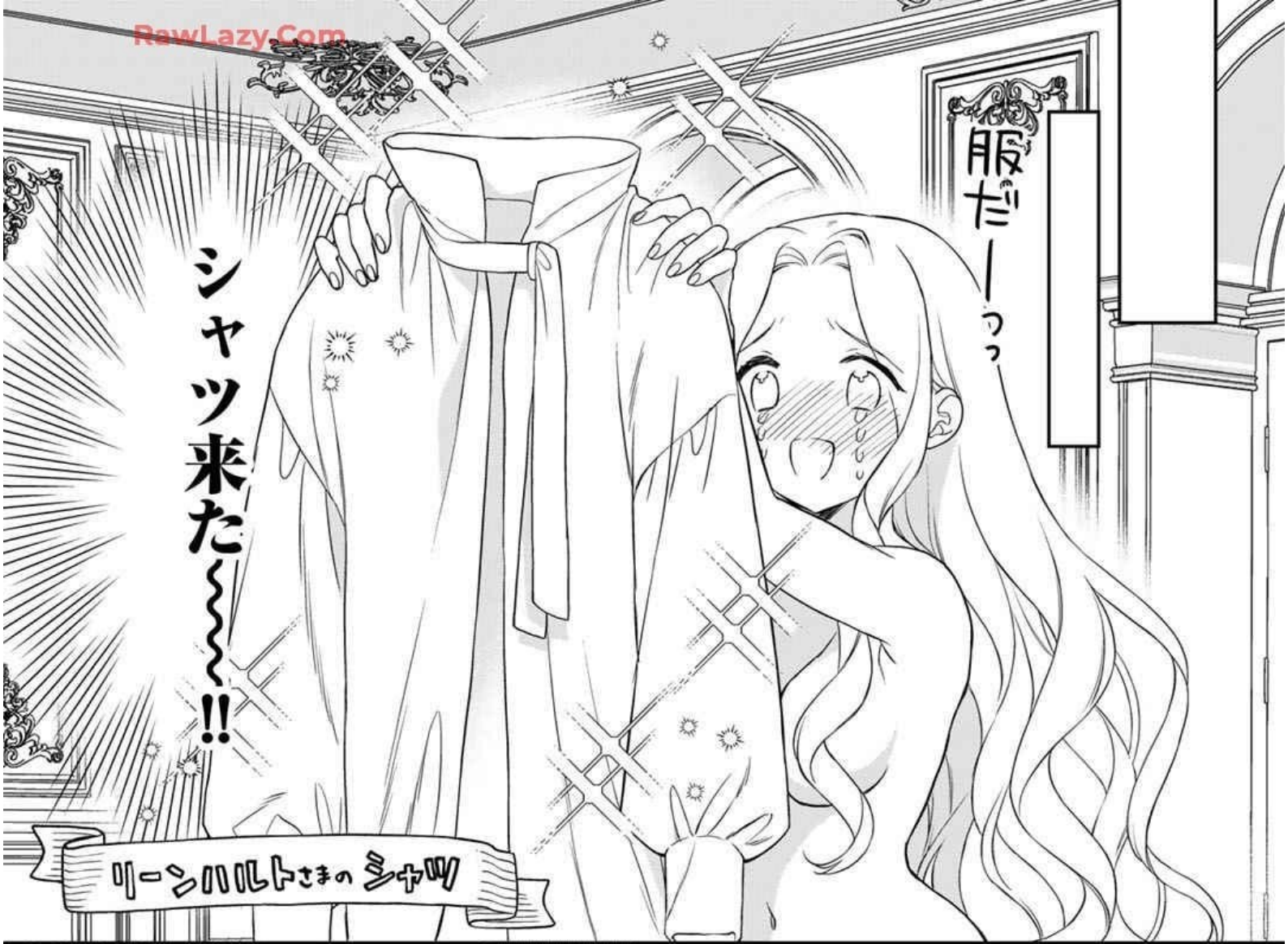
普通にしたい...
っていうのは

ダメですか?

んへへ...

っ





シャツ来た〜!!

服だー

リー・ンハルトさまのシャツ



かわいさうなものを見る目



はっ



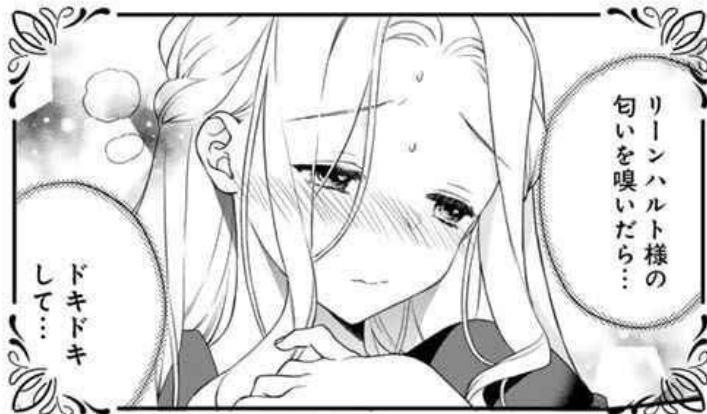
普通の
前ブレ!?

いそ

いそ

こっこれは
もしかして

ごうごも...







産後の体に
良いとされる物を
持ってきた

アンネリーエ

番外編 3



山盛りの
食べ物なん
ですがー!!

ぜ：
全部



たっ...
食べられます
けどお...!

かまぬ...

食べられるで
あろう？



そ…そうか

あれ



殿下たくさん食べれば
良いというものでも
ありませんぞ

フッ
フッ
フッ

!



なんだか
しよんぼりしてる…!?

キーン





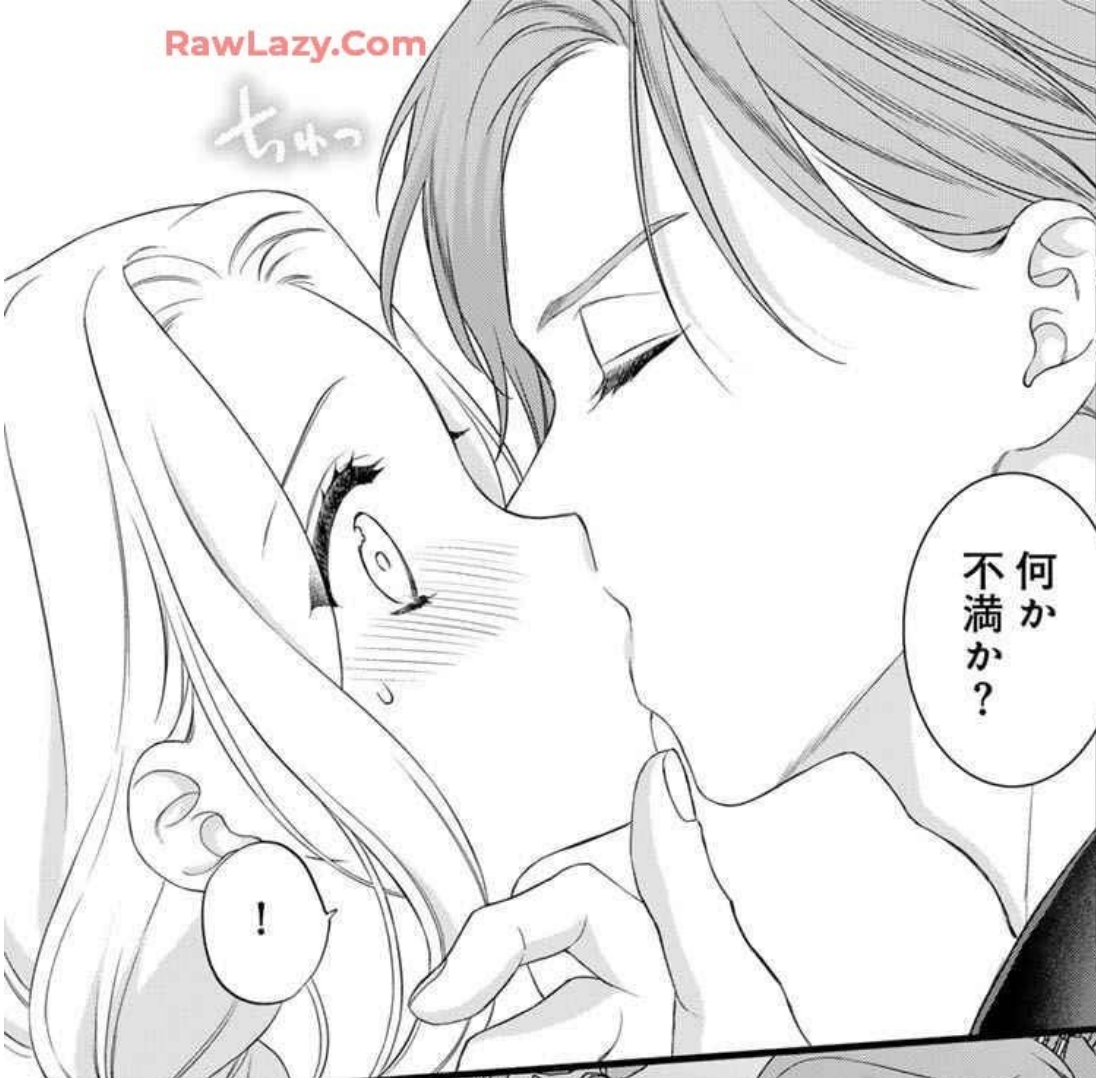
これは
一体…

どうして
なの—!?!?



第24話





ちゅっ

何か
不満か？

！



でも
甘やかしの次に
来るナニかが
怖い...

うーん...



ん...
っ

ちゅっ

はっ...

ちゅっ

ちゅっ

んんん

んんん

っ
♡...



はっ

はっ

— アンナ

何をですか——!?

耐えろ



もっと凄いこと
しちゃうって
こと——…!?

あちち…

今までたくさん
いろんなこと
してきたけど



そなたの望んだ
「普通」——…だが

「普通に抱く」を
するには

そなたの体が
淫乱すぎて
向かぬことを
忘れておらぬか?

淫乱

前に優しくって
リクエストしたとき

長時間イキ過ぎて
大変な目にあつた...

そっ
そっ
さういえば



思い出したか

あー...

.....すみません



落ち込むで
ない

もぞもぞ

埋まりたい...





リンハルト様…

三三…



難しいが
努力してみよう

フム…



そうだ：リンハルト様は
真面目な人だ：

わたしのことも
なんとかかしてくれる
かも：

そなたの体に
起因することだ

私の努力だけでは
どうにかなると
思えぬ

しかし

ばっ

そなたも
努力せよ

わたし

どんな努力を
すればいいん
でしょうか！

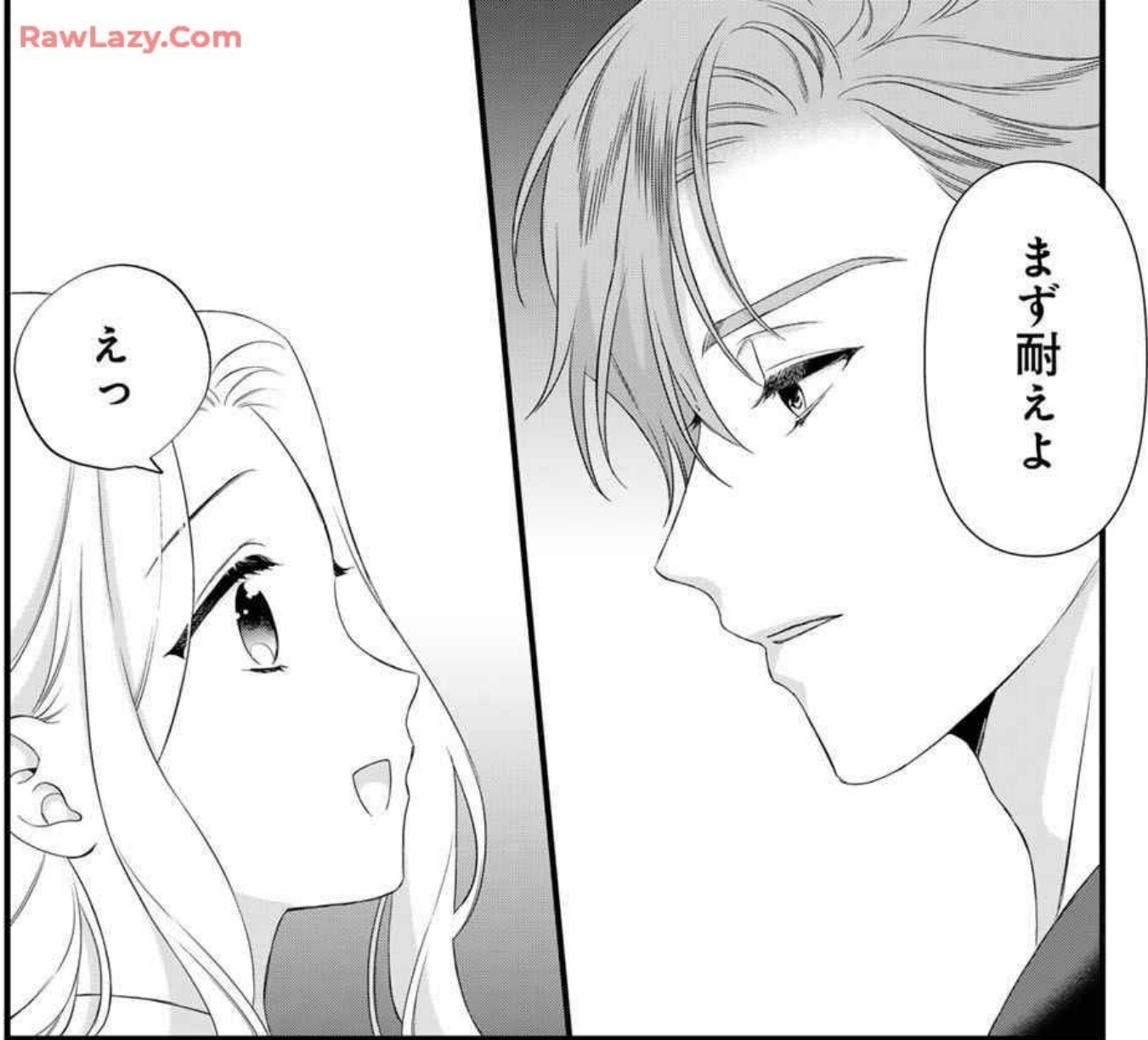
！

アンネリーエの
体のせいだからって
諦めてたけど

この体で
生きていくんだから

ちゃんと努力
しなきゃ…！

先ほども
言ったが…



えっ

まず耐えよ



私が普通に
抱こうとすると

終わるまで
そなたが耐えられぬ
であろう

短時間で
抱こうとすると

……おそらく
また異なる意味で
普通の範囲を
逸脱する

……知ってたけど
聞きたくなかった……

短時間で子種を
出すだけという
抱き方であれば

そなたは一般的な
範囲での快樂で
収まるかも知れぬ

しかし
そのためであれ

私はまるで
義務でそなたを
抱くような





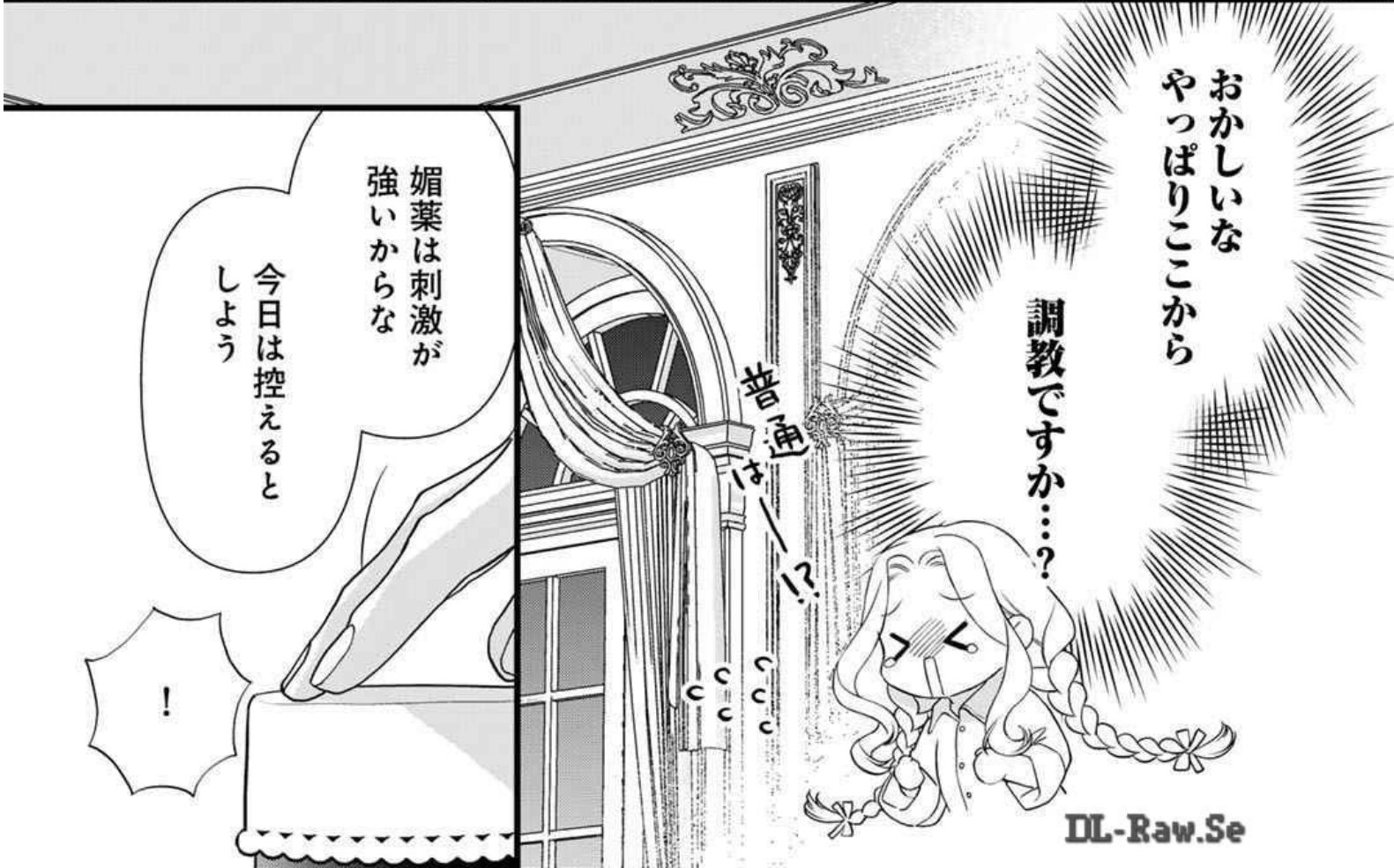
では——…

そなたが
耐えられるように

睨しっけよう



あれ？



おかしいな
やっぱりここから

調教ですか…？

昔連なは——！

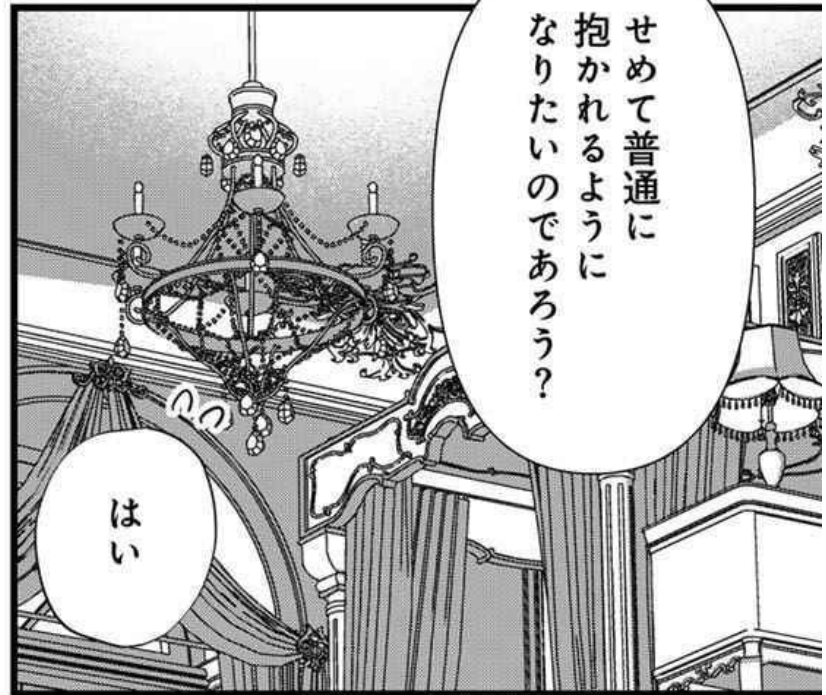
媚薬は刺激が
強いからな
今日は控えると
しよう

！



そなたの淫らさと
敏感さは

私にはどちらかと
言えば好ましいが



せめて普通に
抱かれるように
なりたいのであろう？

はい



しかし己の淫らさに
安易に溺れぬところが

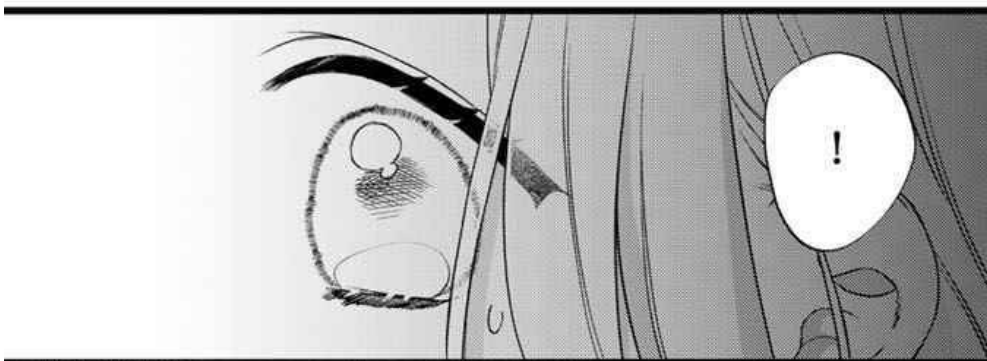


そなたの美德でも
ある



快樂に溺れた
アンネリーエとは…

まったく合わなかった
からな…



!



—…
リーンハルト様

あの…



リーンハルト様に
褒められてる…!!

デレ期…!!

政略結婚だった
とはいえ



元のアンネリーエに
戻ったら…

もし…わたしが



アンナ



そのような
兆候があるのか

ありません……っ

ズッ



そのような
兆候があれば
必ず知らせよ



—…
ならばよい

ほ…



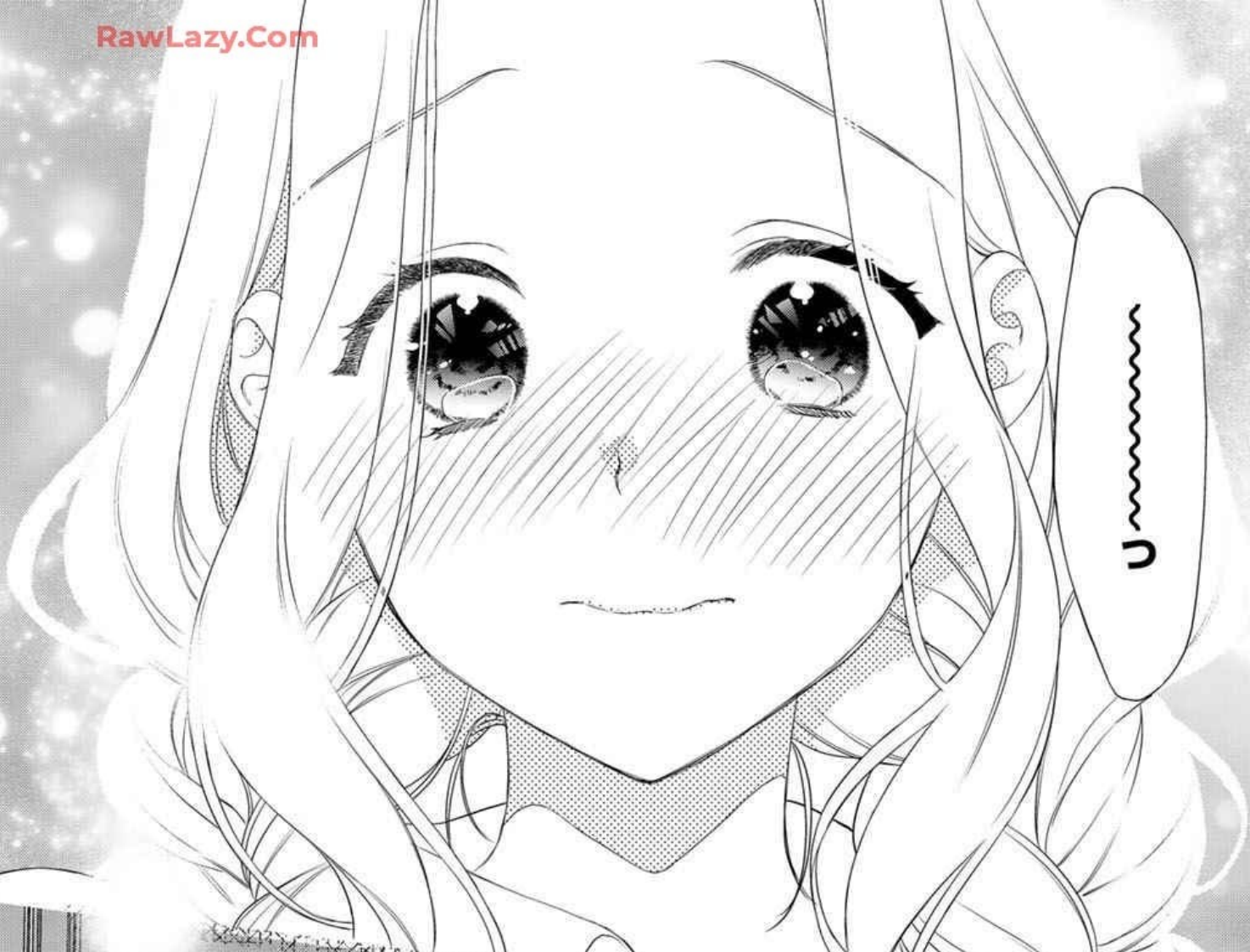
どのような手を
使っても

防ぐ

それで…
いいんですか？

私が私に必要な
ものを維持する
ことの

何が悪い



J

アンネリーエは
死んでいる

—…そなたには
話していなかったが

落ち着き
ななし

違う
そなたでは
ない

わっわたしは
もう…っつ

えええ!?



毒を盛られたことは
最初にエラさんから
聞いてたけど…

どんな毒だったかは
聞いていなかった

助からぬはずの者が
生き返ったのだ

まず別人であることを
疑うであろう

元のアンネリーエだ
詳しく話さなかったが

そういう毒だった
そもそも助からぬ
はずだったのだ



そ…
そうですね

最初から
バレてたのね…

しかも回復した
本人には過去の
記憶がないと言う

確実にこれは
アンネリーエが
死んだので

ヴュステマンが
そっくりの娘を
用意して
入れ替えたと考えた

まあ私に
与えられたのだから
よかろうと

そなたとは
すぐに懇ろに
なったが

結局入れ替えの
事実認められなかった

ねんごろ…

あれをねんごろと
言っているのかしら…



何かあるのか？
アンナ

いっ
いえ



最終的には
精霊や魔物の
乗っ取りだと
考えたが

それならば
それで良い

良いんですか？



人外の血が
王家に入るのは
禁忌ではないのでな

アンネリーエが
アンナであつても
多くの者は困らぬので

おかしいと思つた者も
口を噤んでいるのが
現状であろう

——薄々：
そうじゃないかつて
思つてたけど

絶対過去の話



ヴェルンハルトが
もう少し大きくなれば
落ち着くであろう

わたしの秘密...
意外に秘密じゃ
なかった...?

おんね
知ってた...





ほっ
ぽっ

もうよいな

達しそうに
なっても
我慢しなさい

!

う



……そこからか



ど…どうやって
我慢するんで
しょうか…



そなたは全身が
性感帯のような
ものだからな



あッ



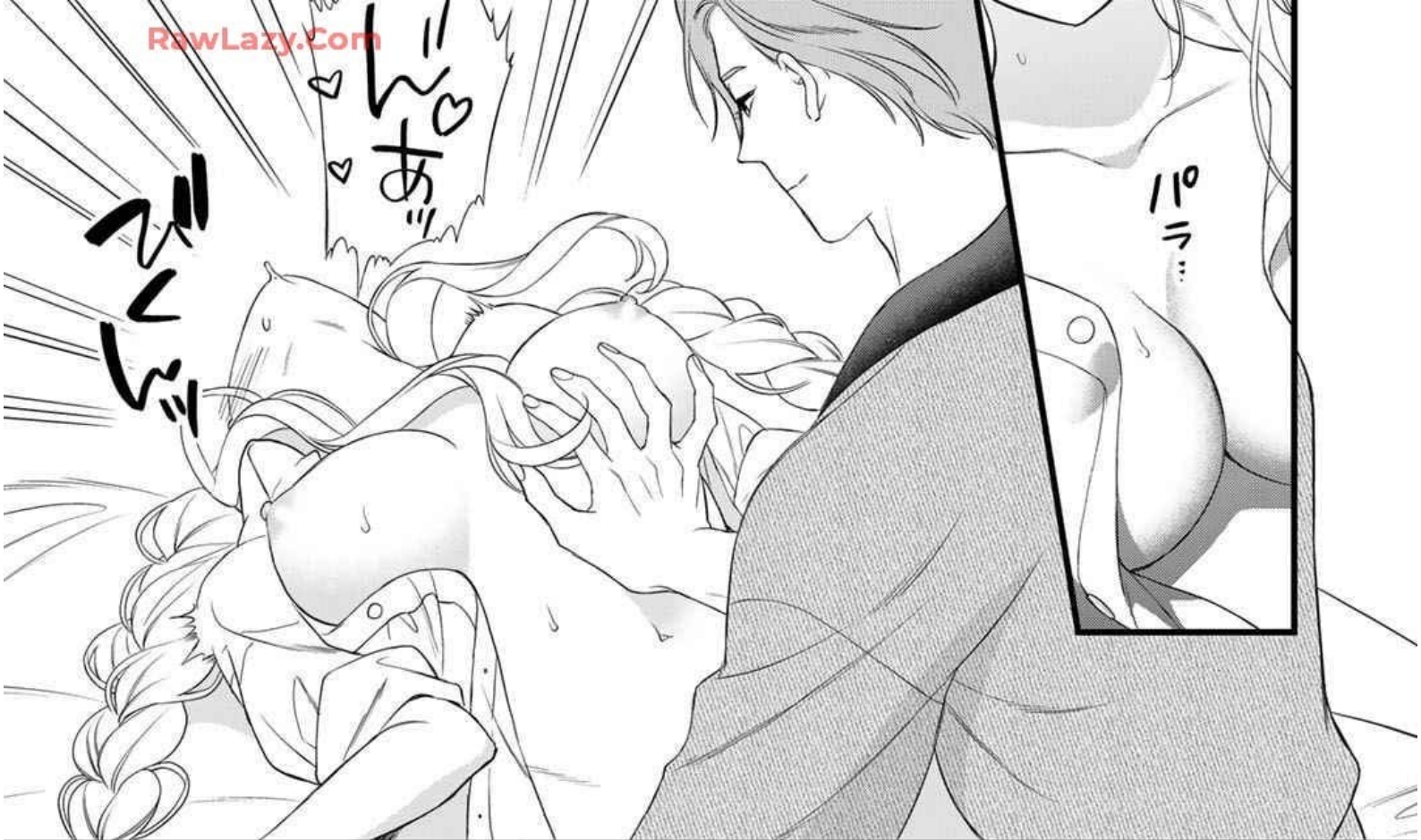
我慢しなさい

は...♡
んっ



すみません...

でもこの体
すぐイっちゃうので
我慢しどころが
わからない...





だっだめですか!?

ガーン

そなたには
いろいろ
教えてきたが

これほど難しいと
思ったことはない



嘆くそなたは
可愛いな

フッ



ガクッ

そんなにわたしに
我慢を覚えさせるのが
難しいの…!?



我慢しなさい

今日は
できるだけ

まあよい



は……はい……っ



そなたは
淫乱ではしたない体
なのだから

諦めよ



もう欲しいで
あろう？

♡♡♡♡♡
♡♡♡

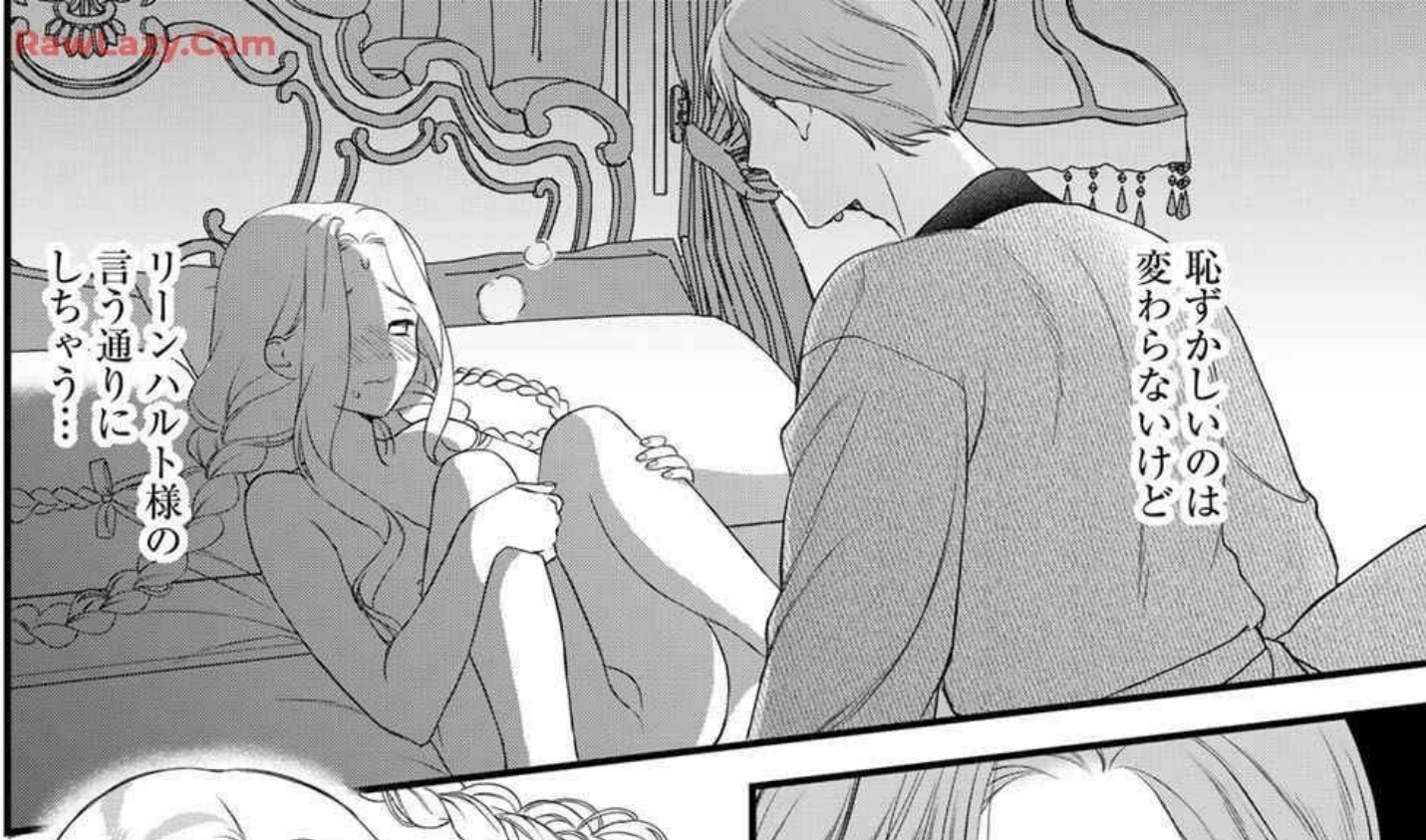


……ほしい

です…



足を開きなさい



リンハルト様の
言う通りに
しちゃう！

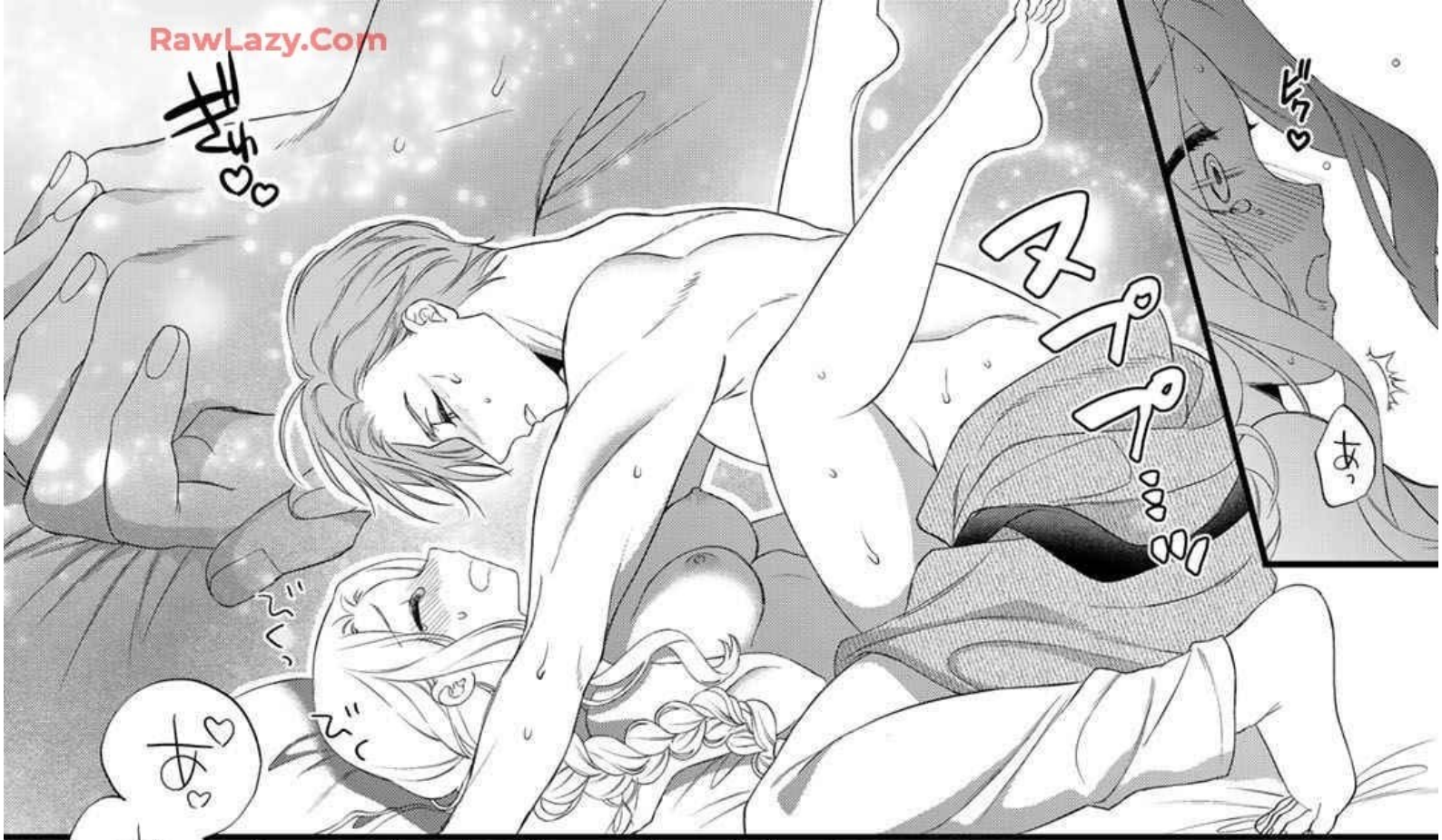
恥ずかしいのは
変わらないけど

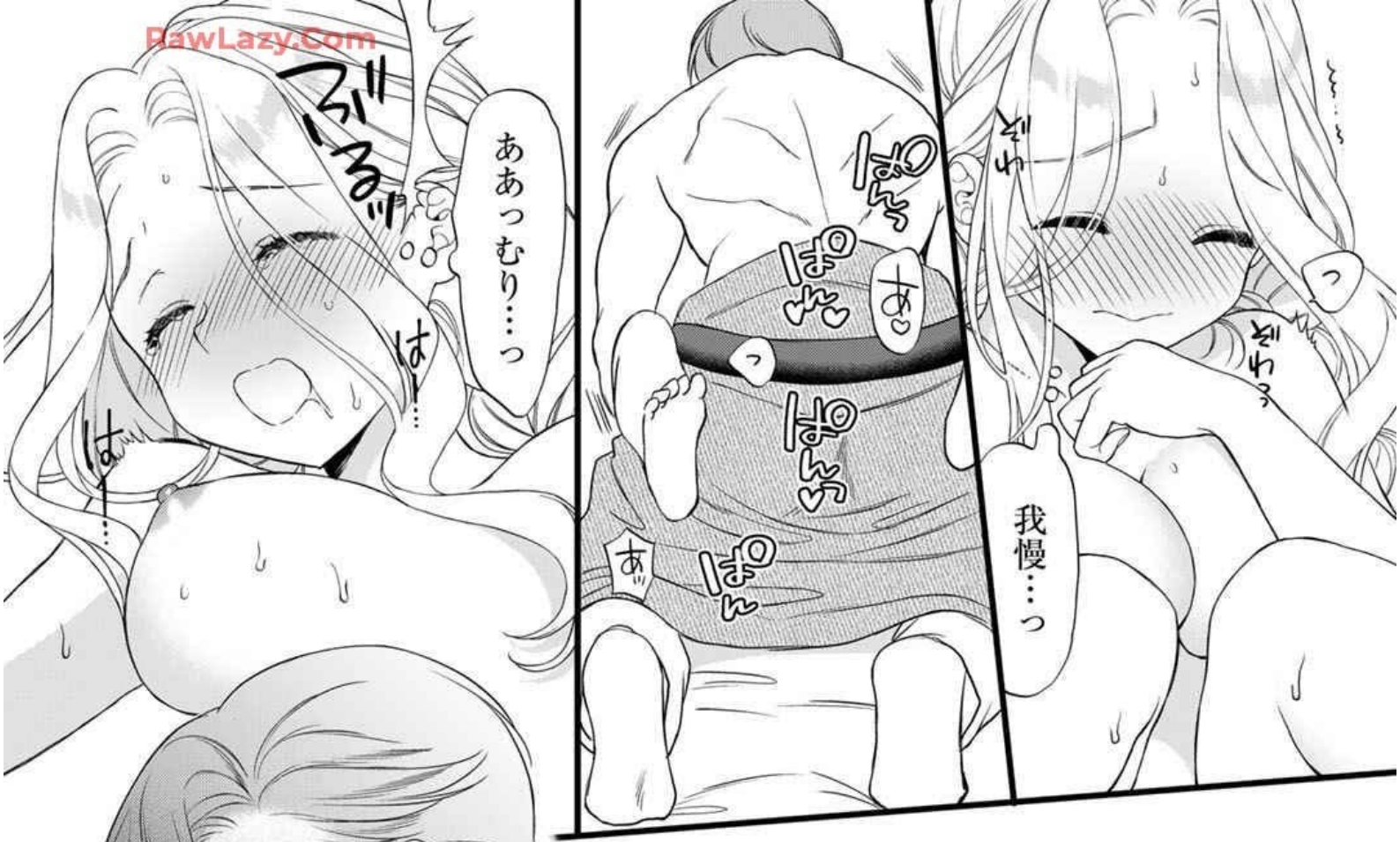


もう……：
そなたはなんと
言えば
いいかわかるな？

……おかし
てください……っ





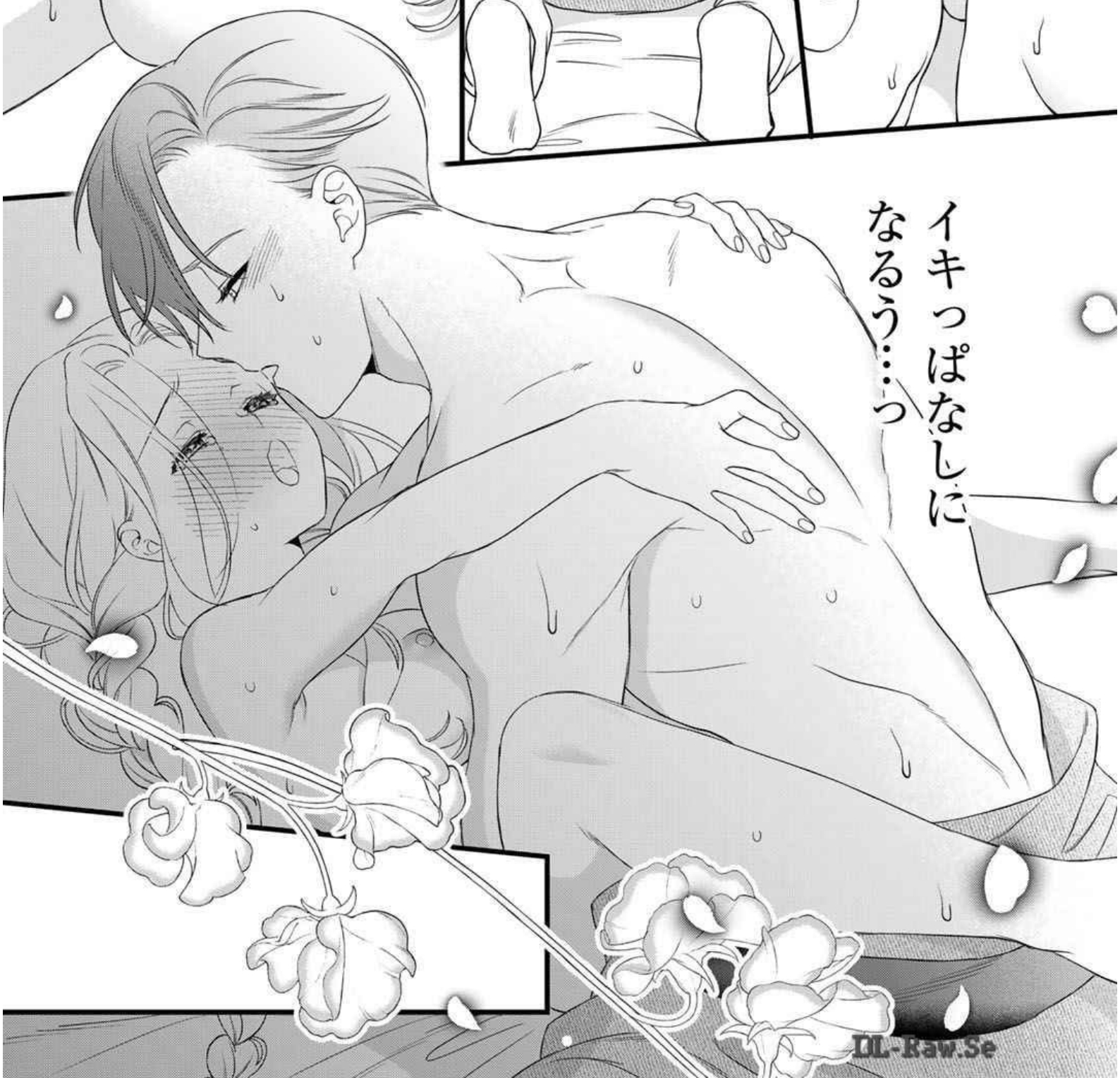


は...は...は...

ああっむり...っ

は...は...

我慢...っ



イキっぱなしに
なるう...っ

普通は
儂い夢だった…

でも
リンハルト様の
デレ期来てたよね

長続き
しますように

アンネリーエ様
お目覚めですか？

ええエラ
今起きるわ

リンハルト様より
本日はこちらを
お召しになるよう
とのことです

えっ

本日はお客様が
あるそうですので

お客様

ドっドレスだーッ

ドッキリ!?

何!?

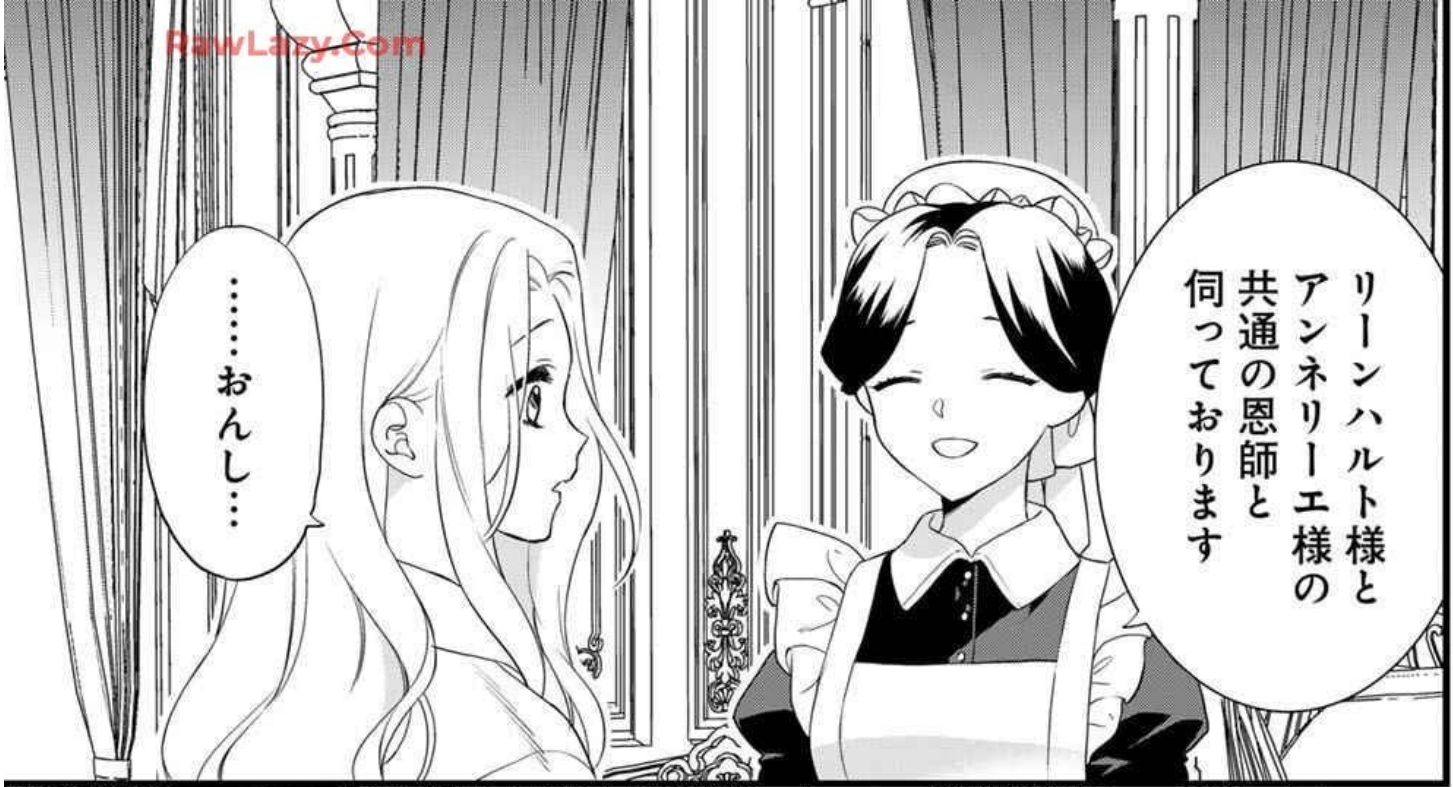
罨!?

誰が来るの？

.....

アンネリーエの体で
生きて2年……
お客様なんて
初めてよね……





.....おんし.....

リーンハルト様と
アンネリーエ様の
共通の恩師と
伺っております



そ...そんなの
一人しか思いつかないん
ですけど...!

いやいや待つて
そりとは限らない...

恩師!?

王立学園の講師の
ルシアン様だと——…

触手エルフ
だ——ツツ!!





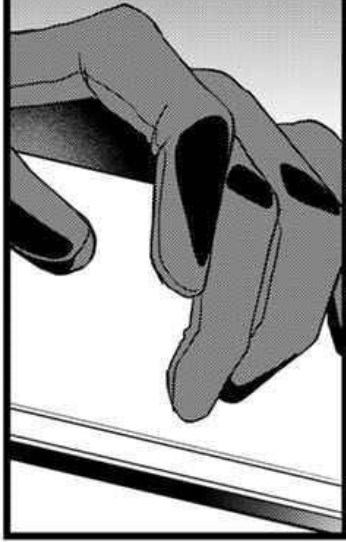
番外編 4

これから
お城に…

行くのに…

あ、あの箱は
何!?

キミ!!



これですか？



ルシアンさん…

その箱は
何ですか？

お土産…？



やっ やっぱり
スライム——!!

にやー

一度馬車で振動する中での
実験をしておこうと
思いました

待ってください



これから人に
会いに行く…のに

服を汚したら…っ

安心して
ください

着替えは
持ってきました



このくらい
の服
だった
ら

私でも
着替
えさせ
るこ
とは
でき
ます
から

あ

た
め

便利
め

ち
ゃ
ん
と
体
も
キ
レ
イ
に
で
き
ま
す



ち
ゃ
な
み
に
魔
法
で





第25話



支度は
できているか

リーンハルト様

ドレス着るの
久しぶり過ぎて
挨拶の仕方とか
忘れちゃった！

あの…

お客様…
そわ
そわ
落ち着きなさい

わたしが
学園時代のことは
まったくわからない
ということとは…

ああ
記憶が無いという
ことは知っているので
心配せずともよい

作法にもつるせん
ないんだ

先生は何をしに
いらっしやるので
しょう

それは…

ド
ド
ド
ねえ
まだ…?



この髪色は…

誰!?

!?

こよん



合法シヨタ…!!

この18禁ゲームの
特殊ルートのひとつ…
そして人外キャラの…





しまったシヨタとか
通じない…

ええと…



合法シヨ…？
なんだ？

あつ

いえ…

わたしはこの体で
目覚めてから
ずっとこっちの言葉を
喋っているけど

たまたまに元の世界の言葉と
混ざってわからなくな
っちゃう…

不審…



だから記憶喪失って
診断が出ただけ…



彼女ちゃんと
服着てるんだし

いいじゃん

ねえ
まだー？

もう少し
待て



合法シヨタは
この国と王族の
守護精霊だ

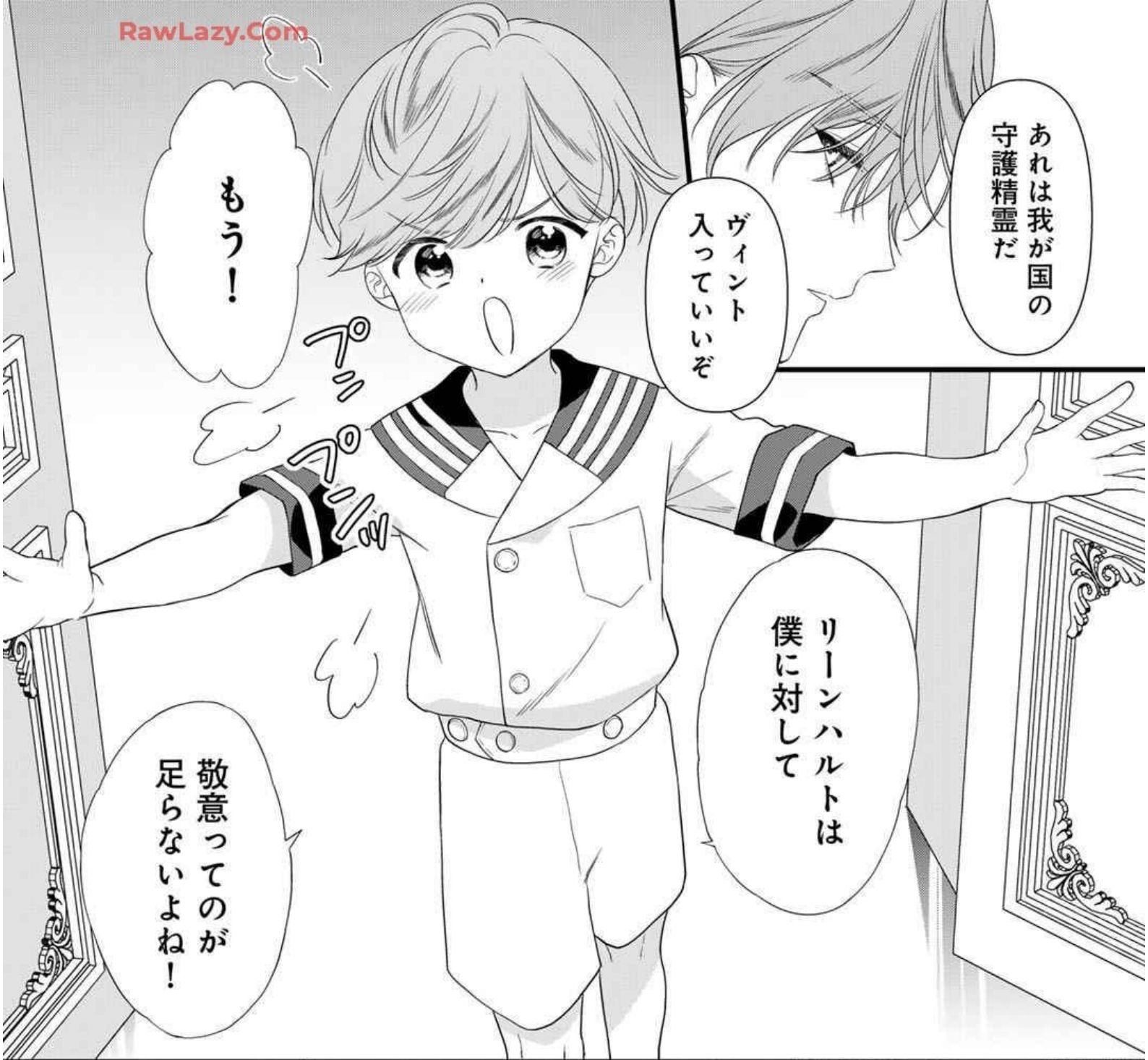
国民…わたしは
対象外だと思うけど…

あの…
あの子は…



知ってるんだ…
しばらく服を
着てなかったこと…

づう…



あれは我が国の
守護精霊だ

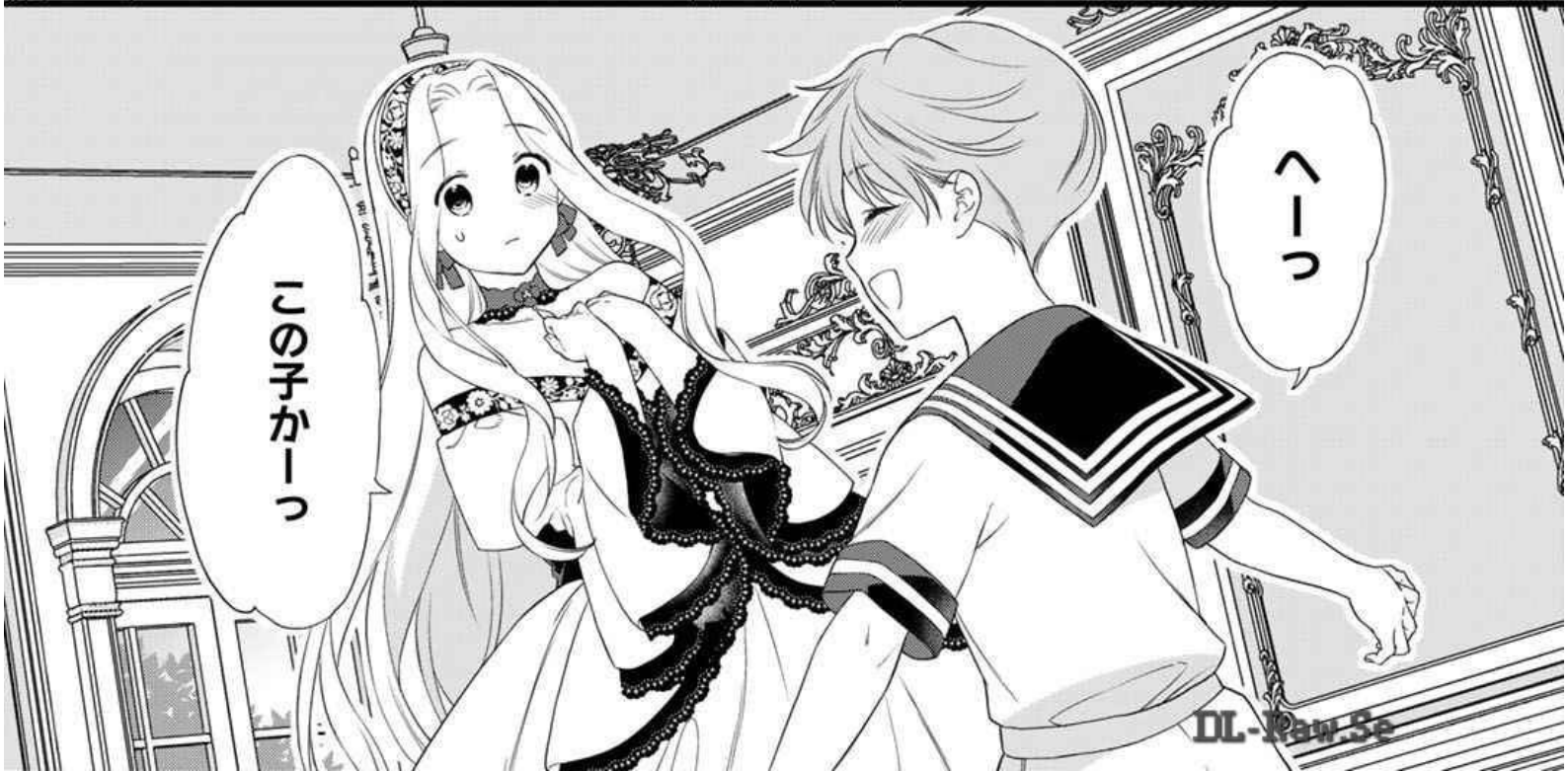
ヴァイント
入っていいぞ

もう！

ポニ
ポニ
ポニ

リーンハルトは
僕に対して

敬意ってのが
足りないよね！



へーっ

この子かーっ

いし

ぐり

ぐり

あっあの...

少し落ち着け
ヴァイント

ぐり

ぐり

あたた!

あ...あの?

し...

うん

くる

もー!
わかったよ!

フニ

本当か?

わかった
てば!



ヴェルンハルトに
何か…

ああ



ヴェルンハルトの
加護は

この子から
引き継いだ
ものだよ

我が国の王族は

守護精霊と守護獣の
加護を持って
生まれてくる



この子
僕とカレル以外の
加護がついてる



先日ヴァイントが
ヴェルンハルトを
見たところ……

あれ……



わたしの!?

私の血から引き継いだ
ものでなければ

そなたからでしか
あり得ない



え……
それ誰の!?

……じゃなくて
アンネリーエだ……!

アンネリーエの
加護……

頑丈か淫乱……ってこと!!

どっさり!!

ジュジュ
ジュジュ
ジュジュ

そ……
それは一体
どういう?

淫乱は
勘弁してー!

ゴクッ

わかっているぞ

リーンハルト様……!!
加護の内容とか
わかっているんでしょうか……!



私はこれを問題で
あるとは思わぬの
だが……

因果関係は
明らかにしたほうが
いいよ！

ただ……

え、
頑丈なのは
いいこと
ですよね!?

うーん

王族として
死にくらいつてのは
悪くないんだけどな

ヴェルンハルトが
把握できていなくて
不幸を招く恐れがあると
言われてな

あの子はゆくゆくは
王になるんだ

生きていたら
いろいろあるからね

だが頑丈だと
普通の者より
寿命が長くなる
可能性がある



偽アンネリーエ
だから会っても
困るんだけど

アンネリーエの
血筋の加護
なんだよね？

じゃあ：
どうしましょう

わたし：倒れたあとから
実家と連絡なんて：

もうそのあたりの
回答は得ている

早！
はや

アンネリーエの
生家である
ヴュステマン家に

このような加護を
持つものは確認
されていない

それは…

つまり

この加護を
得た者は



うーん



僕にもちよつとこの子の正体はわからないや

へ?



神霊でも悪霊でも精霊でもないよな



アンネリーエが初代であると考えられる

ええええ...!!



あなたアンネリーエではないという事はわかってたことだ

あや...!!

バレてた... アンネリーエの中身が違うってバレてた...!!

どちらだ？

そなたは
アンネリーエを
乗っ取ったのか
元来アンネリーエの
守護者であったのか

わかりません…
ミトコ…

わ…

人が生まれるときと
人が死ぬときだ

わからぬか
人ならざるものが
人に入り込むときは
大きく二つに
分けられる





まあ普通は
訊かぬ

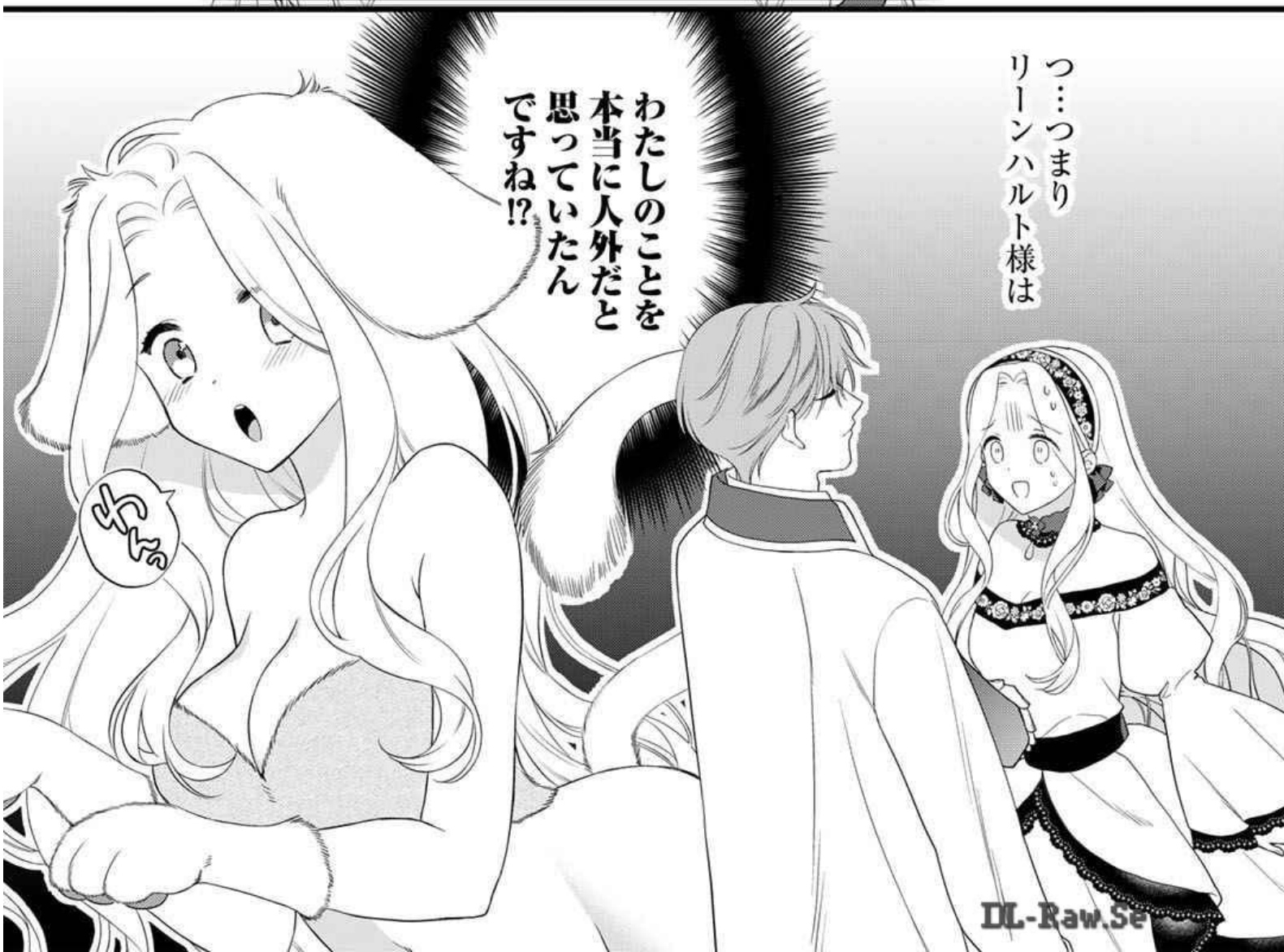
そなたの現在の姿に
なる前を追究しない
ということだ

知りません
でした…

そなたはどうも
そういうことを
知らなさそうだが



ん…



わたしのことを
本当に人外だと
思っていたん
ですね!?

つ…つまり
リーンハルト様は



もう逃げそうもない
というのでこの場を
設けたが

私は反対だった

し
す
す

そ...それで
ずっと不機嫌
だったのね...

.....からのいきなり
お仕置きとか
ないよね!?



あつ 僕らの
ことは
お構いなく

えっ



リールハルトが
いきなり盛^{さか}っても
気にしないから!

子孫繁栄は
大切だからね!

気にして!
そこは気にして!

俺は
気に
する...

アンナ

人の体に乗っ取った
者と遭遇した場合

敵か味方かを
見極めねばならぬ

味方となるなら
過去を追究しない

逃げられる
可能性が
あるからな

正体がわかったら
逃げてしまった
昔話みたいに

この世界の人外は
後ろ暗い過去でも
あるのかしら…

いや…でも

そういうお約束は
共通なのかな…

アンナ

はい

逃げてはならぬ

返事は

は、
は、
は、

ハハ

ハハ

リンハルト様から
逃げられるなら

無理だったから

すっかり
調教済みなわけで…

一番最初に
逃げてますとも…



外で生きていけない
ことは想像がつく

知識も技術も
ないし…



ちいさ



リーンハルト様の
下だけなんだろうな



わたしがアンナとして
生きられるのは



とは言っても



そなたの正体を
どうしても答えたく
ないならば

秘匿することは
許す

はい…

正体…

わたしは日本では
普通の一般女性
だったんだけど…



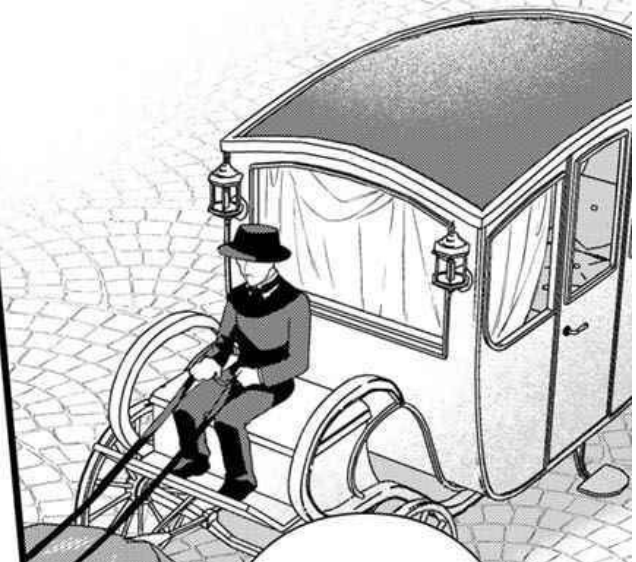


もうじき
ルシアンが



——異界
もしかして...

お仲間が
いる!?



異界の魂が宿った者を
連れてくる





第26話



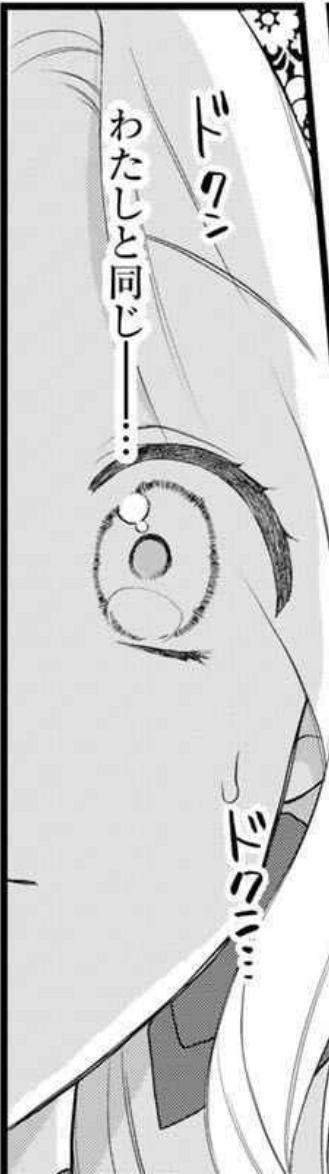
お客様が
お見えになりました



カレに
帰っちゃったぬ

あやつ
らしいな

あはは...



トクニ
わたしと同じ...



連れて参れ

転生者

—
…
!!



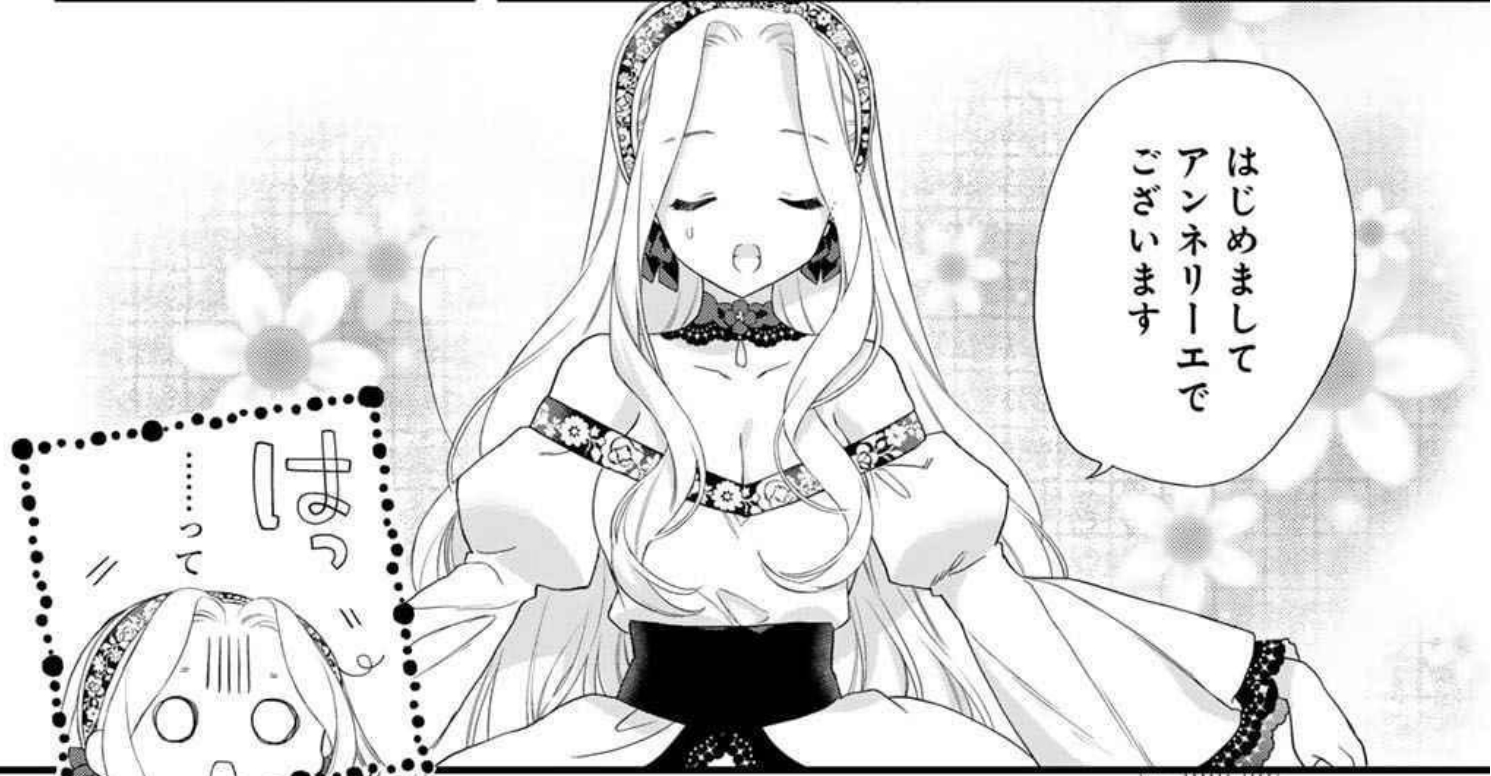
おや



ヴァイント様も
いらしてましたか

うん
先に見ちゃった





思いつくは
すげえヒロ...

どんな話を...



お話は
リンハルト様から
かねがね伺っています

ニニ



はじめまして
ようやくお会い
できました

僕にも
判断つかない
や

本当に君が言う
異界の魂なのかも



加護はあるけど
神霊 悪霊 精霊
全部違うみたい

それで
どうだったん
ですか？

んーとね



そうですね
異界の魂の加護は
記録にも見つかりません

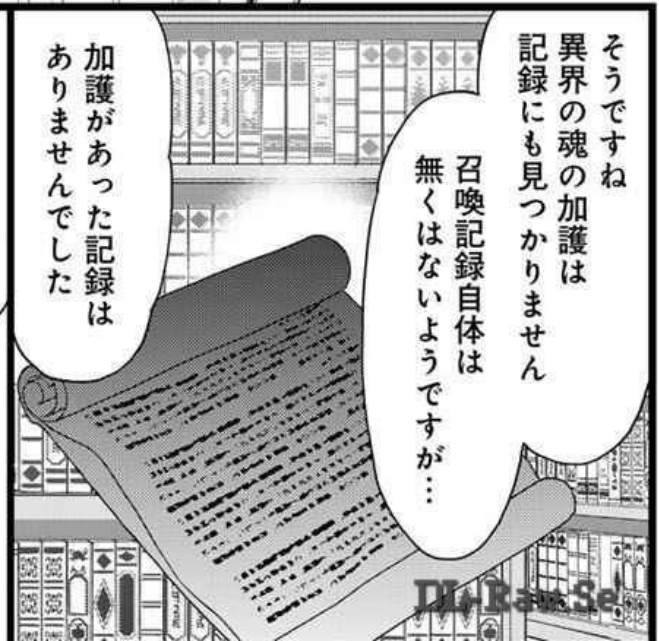
召喚記録自体は
無くはないようですが...

加護があった記録は
ありませんでした

はっきりとわかる
加護でなければ
気づかずに終わり

与える者が
絶えれば
無くなる加護も
あろう

それは記録には
残せぬな





それ目当てに
ばんばん召喚しちゃっ
よね！

そうか……
こっちの体に入ると
加護が付くんだったら



大したものではないと
記録を残さなかった
ことも考えられる

あるいは人為的に
加護が得られることを
秘匿した……



その者が
異界の魂を
持つ者なのだろう？

かまわぬ

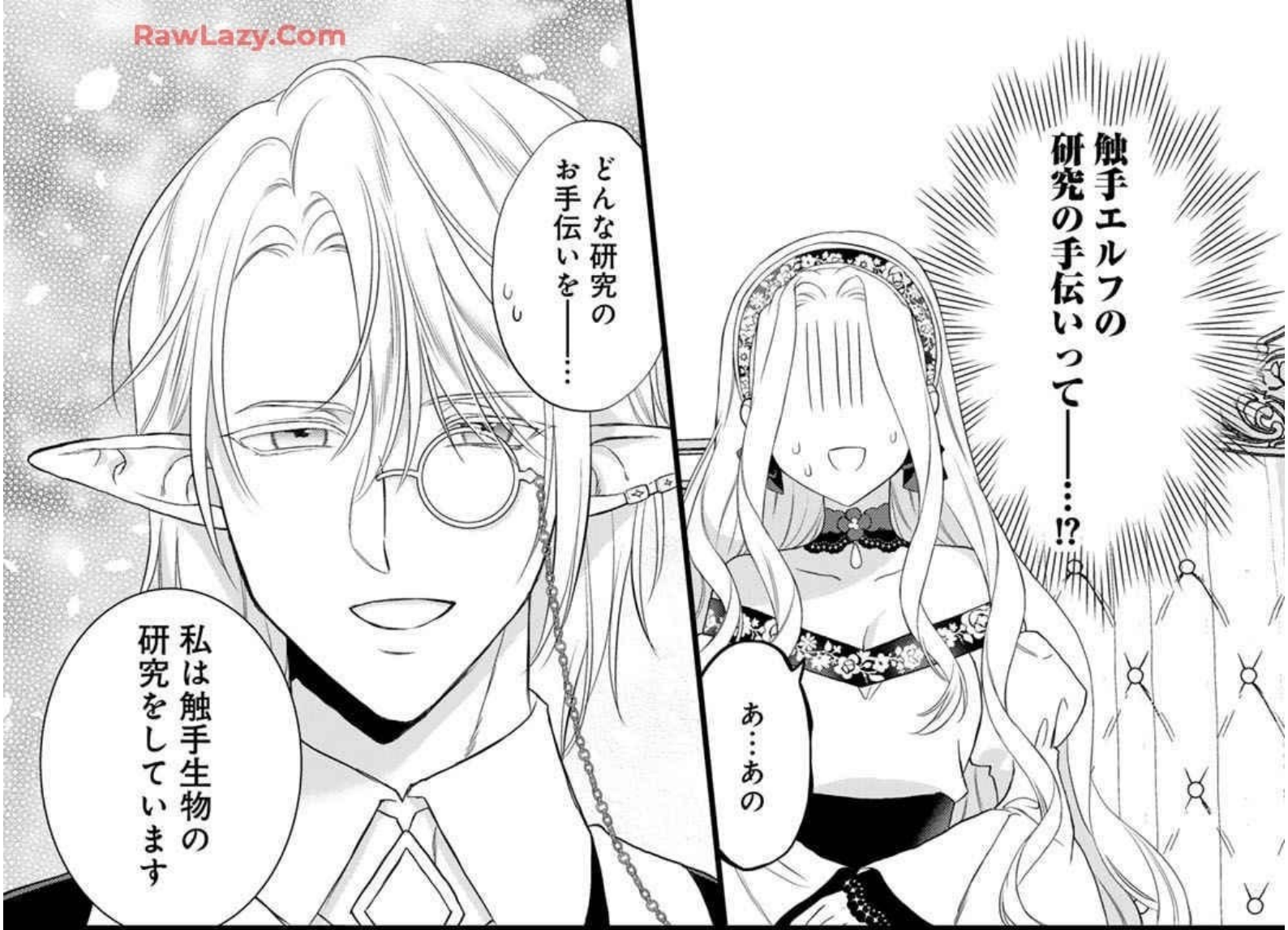
連れも
よろしいですか？



ひとまず座って
楽にするが良い



はい
私の研究の手伝いを
してもらってます



触手エルフの研究の手伝いって……!?

どんな研究のお手伝いを……

私は触手生物の研究をしています

あ…あの



ぞ…

存じます!!

幻影が見える…



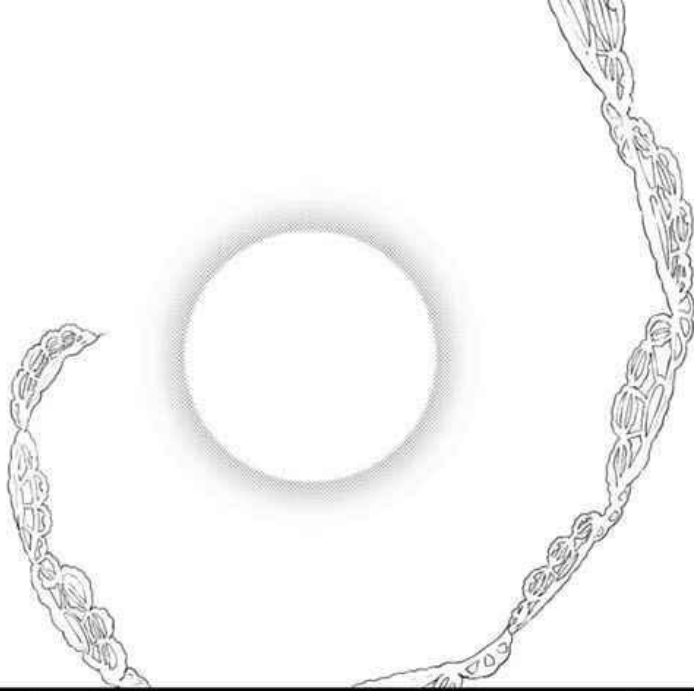
どんな加護!?

そして彼女が触手生物の生育を促す加護を持っているのです

もしも本当に同じ
世界から来たなら
その加護は一体
どうして付いたんだろう…

わたしの顔丈も
理由はわからない…

完全
コソコソ



あと…

すごい微妙な顔
してる…
しし



じろ

じろ

じろ

既視感…

ふしん





彼女アヤさんに
ついては経緯が
判明しています

彼女は元々
森に住む魔女の
ところにいました



アンネリーエと
同じみいだね

まったく同じ世界から
来たのかはわかんないや



アヤさんの魂は
異界から召喚され
この体に定着した
ものです

招いたのは元々
この体の主で
魔女の弟子でした



—…アヤ

日本人っぽい
けど—…

召喚魔法の暴走で
本人は命を
落としたようです

もう…
アヤさんは
帰れないんですか？

あの…



だって気になるんだもの…

じ…



この体に入った当初から
簡単な魔法は使えたよう
です

アヤさんは魔女の記憶を
引き継いでいませんが
能力は引き継いでいます

なのでいずれは
同じ魔術が
使えるようになり



元の体に帰還する
魔術が創れるかも
しれません



フィル...



どきどき



じゃあアンネリーエも
同じ魔女の召喚の
せいだったのかな

アヤ

怖い怖い!!!

それが……



時期が合わないので
わからないんです

アヤさんのほうが
召喚の時期が
早いんですよ

それに森と王城では
ずいぶん距離があります

それなんですけど……



わたしはお妃様の
魂を召喚したのは

この体の主であった
魔女ではないと
思います！



実はわたしの元いた
世界には

この世界によく似た
世界を描いた物語が
ありました

そしてその物語では
お妃様である
アンネリーエ様は

「悪役令嬢」という
役どころでした



これはやっぱり
同じ世界の——…

そして
もうひとつ

「悪役令嬢」に
わたしたちの世界の
魂が送り込まれて

転生する法則が
あったのです！

日本から…

え…
転生って

そんなの
あった!?
創作とかじゃ
なかったっけ…

なのでアンネリーエ様は
きっとはじめから
悪役令嬢として
転生されたのです！

へー!!
そんな法則
あるんだ

おもしろーい



……そうなんだ

ミアさんが
ですか：
なるほど

それでアンネリーエが
「悪役令嬢」なのだな

わたしが知らなかっただけで
悪役令嬢転生は
世界の法則だった…？

いやいや
流石にそんな
ことは…

ではアンネリーエは
初めから異界の魂を
宿していたという
ことになるな

あの事件で助かったのは
加護ゆえということ
なのでしょね

ただ加護が顕現
するために魂が戻らねば
ならなかったのかも
しれません

え？

え？

混乱



なんか物凄く
わたしの世界
誤解されてない!?

わい
わい

こっちの世界の話
綴るのに覗き見る視点
みたいなものが
必要なのかもね

その世界の神霊が
そういうことするの
好きなのかもなあ



アヤさ...

よし



ともあれ...

...ガッツポーズ?



あのっ

わたしの元いた
世界には

そうか!

はっ

その魔女…の
元々の者がしたことでは
ないと判断してよいだろう

どうしてアヤさんが
悪役令嬢転生を
世界の法則のように
言ったのか…

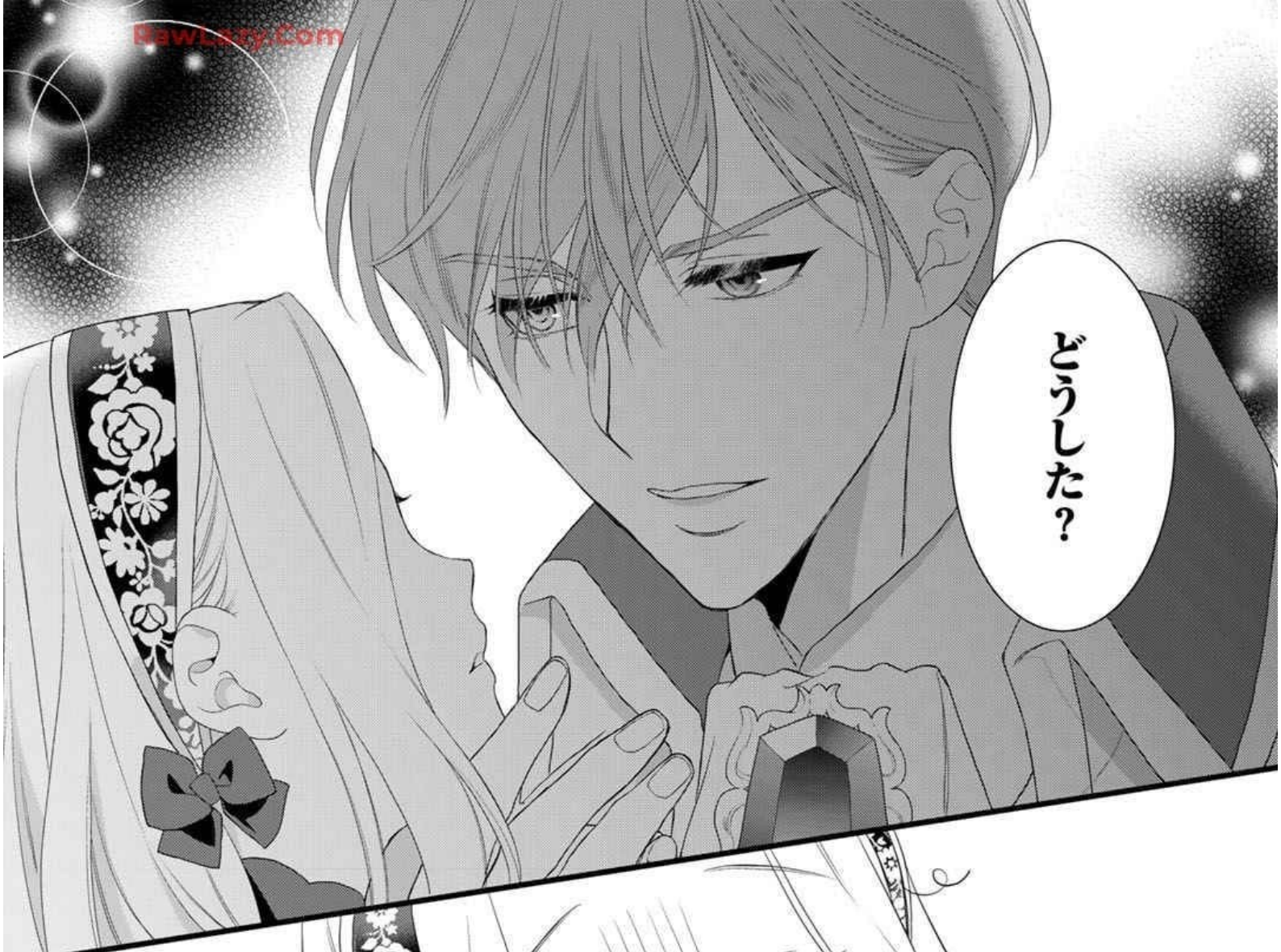
処刑
回避

今言わなきや
二度と……

アンネリーエ

保身に走ったんだ——!!





どうした？



なんでも
ありません…

……いえ



リンハルト様の
顎クイ

やっぱじ
怖い…



第 27 話



わたしの加護の
確認が終わると
皆さんお帰りに
なった

アヤさん…

「悪役令嬢転生」——…
本当は無かったとか
言えなかった…

何を考えている

あっ

今はもう…
関係ないことです…

関係ないことを
考えていないと



おかしくなっちゃい
そうだからです…っ



まだだ

ニヤッ…

リーンハルト様…

はぁ

んっ

あ

はぁ



媚薬を十分に体に
沁み込ませてから
ではないとな...

もう...
触れられるだけで...

は...

す...



まったく...

///
ニ

びく
==
♡



わたし...
その...



先ほどのそなたは
何を言おうと
したのだ？



そなたが私から
離れて

元の場所に
帰りたいなどと
考えぬよう

躡しりぞけ直さねば
ならぬな



か：帰りません：
ヴェルンハルトが
大人になるところ
見たいし：

あ、
ヒクッ

♡
♡
♡

お
1310
1310
...



あ

は

ヴェルンハルトが
いなければ

そなたは
帰るのか？

ん!!!

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...



あ
あ

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

それに

こんなにも簡単に
達する体になって
いるというのに

帰って
どうするというのだ

……そうだ……



それは
すごくキツイ
気が...

こ...



調教済みドM淫乱女が
一人になっちゃう!!!

今帰ったら
リンハルト様の「躰」で
できあがった



困ります...

困る?



それだけか...?



びいびい

...

...



びいびい

奥に...一気に...



...

...

...



そなた…
わかっておらぬな

(はあ)

(はあ)

カ
カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ

カ
カ
カ
カ

水が溢れて
しまったではないか

110ニ
110ニ

あ

あ

だって…
激しい…っ

しっかり
持たぬか

110ニ
110ニ
110ニ
110ニ

ガッ

フェ

いめん…

ななご…っ

は♡

♡

♡♡♡♡

♡♡♡♡

♡♡♡♡



今からそなたに
自覚させねばな

?

ぐいっ

え…!?

…



まっ

待ってー…ッッ



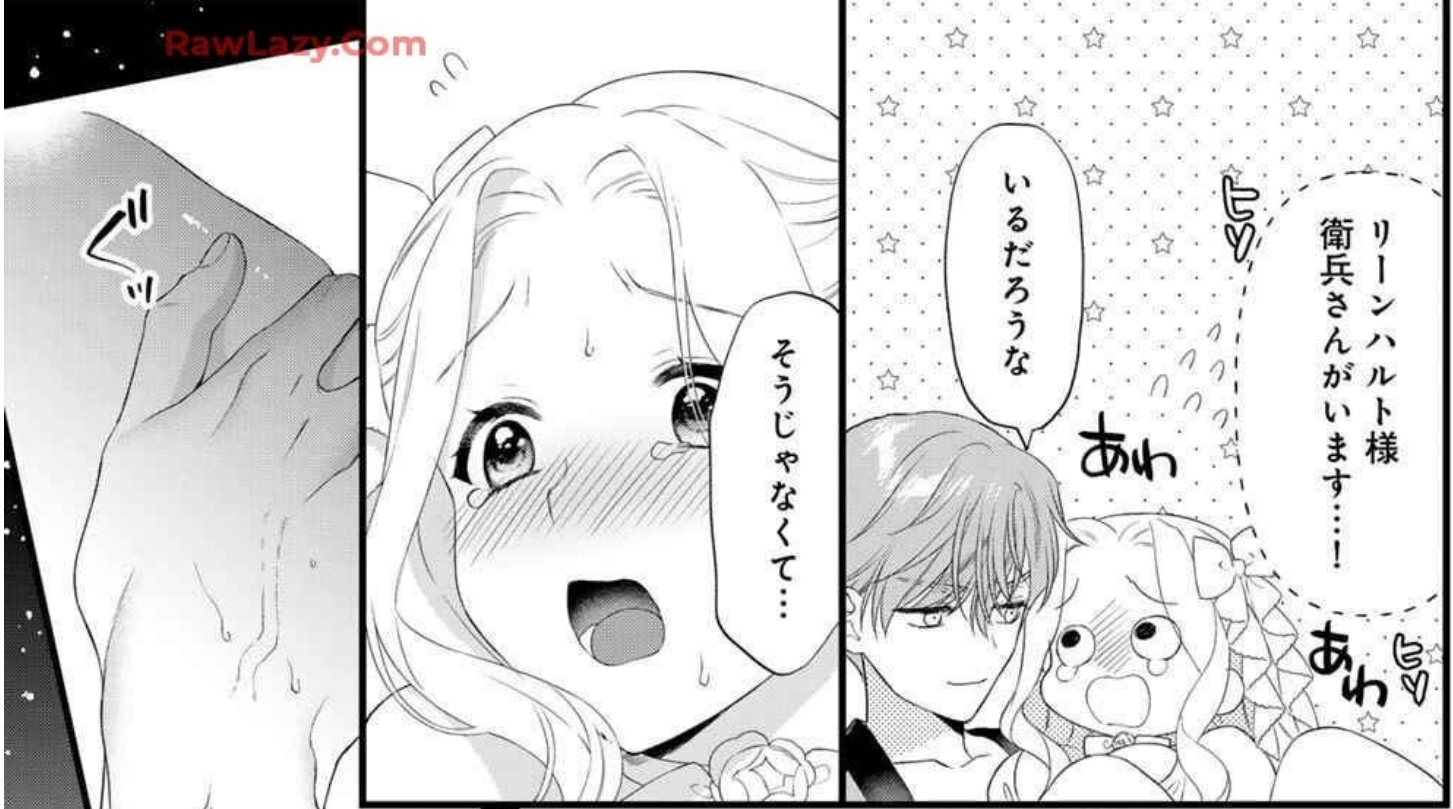
いくら夜だからって…!

外は…

はあ

はあ

…
いや

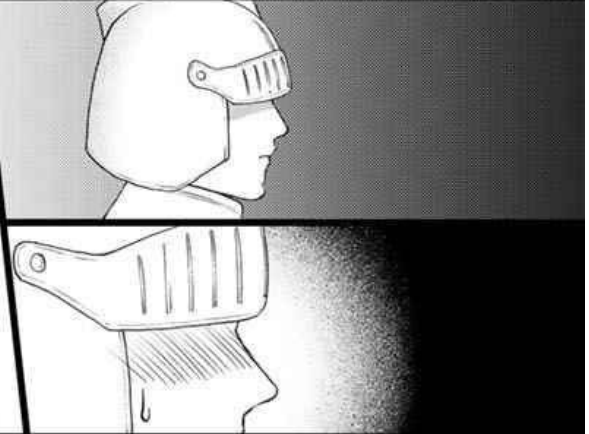




かまあま



気付かれない
ように...



悦いのか
アナ

締め付けが
強くなったぞ

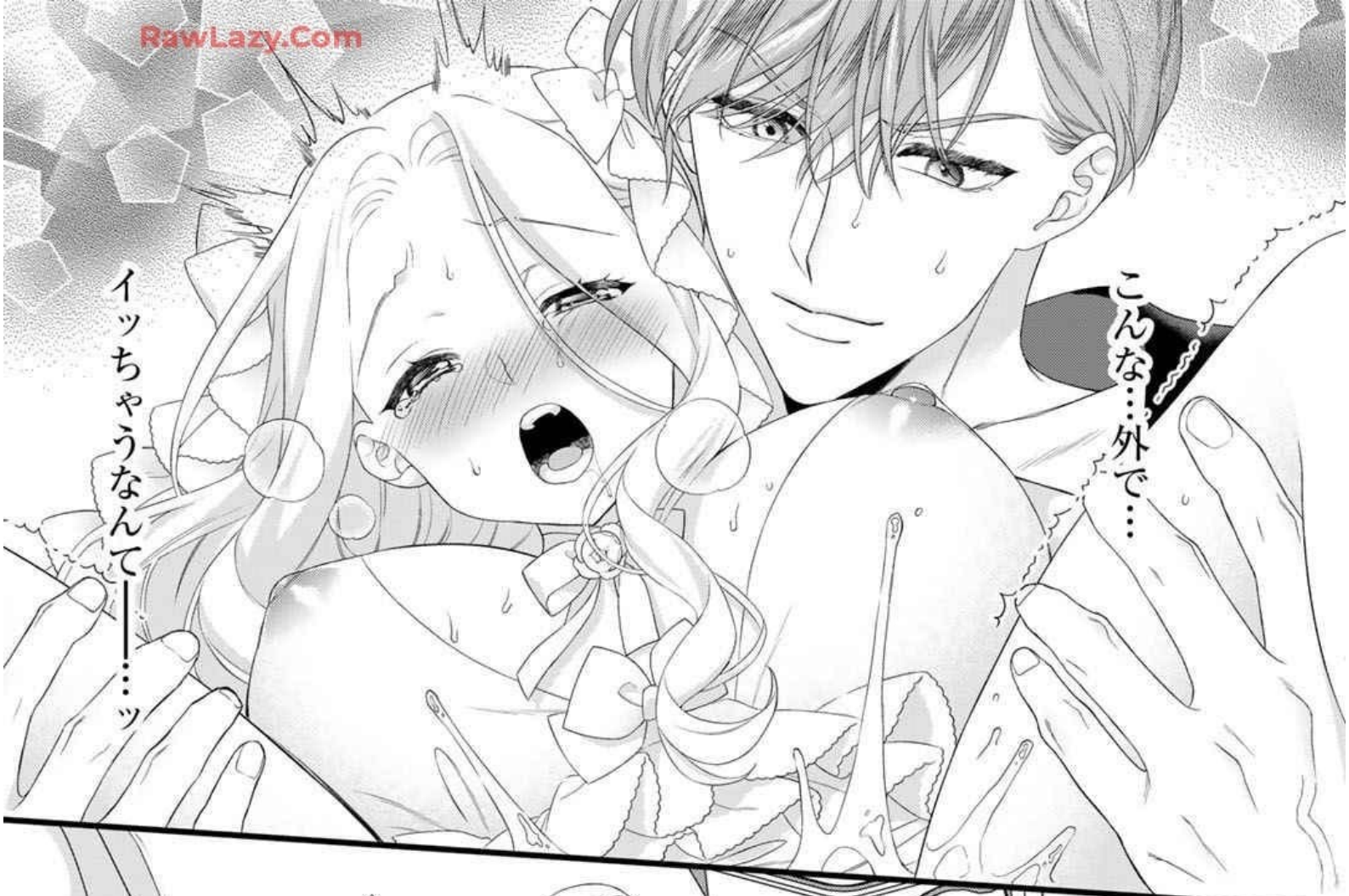
ち...違っ



キレてる...

...ッ

んっ



イツチャうなんて……ッ

こんな…外で…



ド
サ
ッ

アンナ



帰りたいたうなら
帰ってもよいぞ

!?



スルッ

ただし



死んだ後……!?

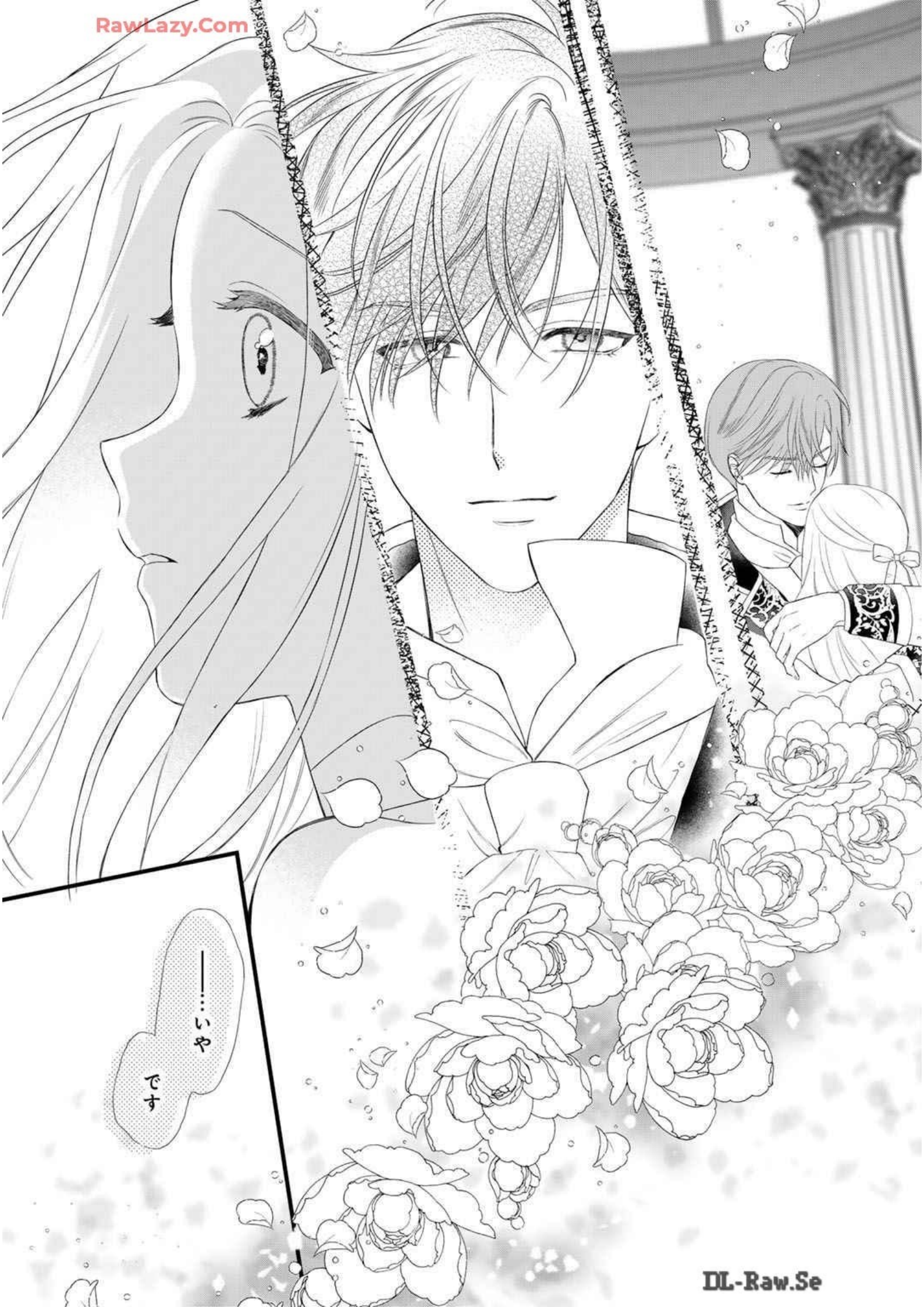
私が死んだ
後ならばな

おそろくそなたは
私よりも長く生きる

そういう
加護だからな

リーシホルト様の
いない世界で…？

長く生きる…？



……さあ
です

リンハルト様

長生き
してください



できるだけ
長く……!

リーンハルト様の
いる世界が

わたしのいる
場所だから……



よかろう



そなたの
望むようにしよう





嘘は
言わぬ



今宵はそなたを
抱きつくそう





今日は気を失うのは
駄目だ

許さぬぞ——！

私から
逃げるのは

あなたと一緒に生きていくから——…

もう
逃げません



好きです…
リンハルト様…



あ...
まっまだ
するんですか...

そなたが
望んだことだ

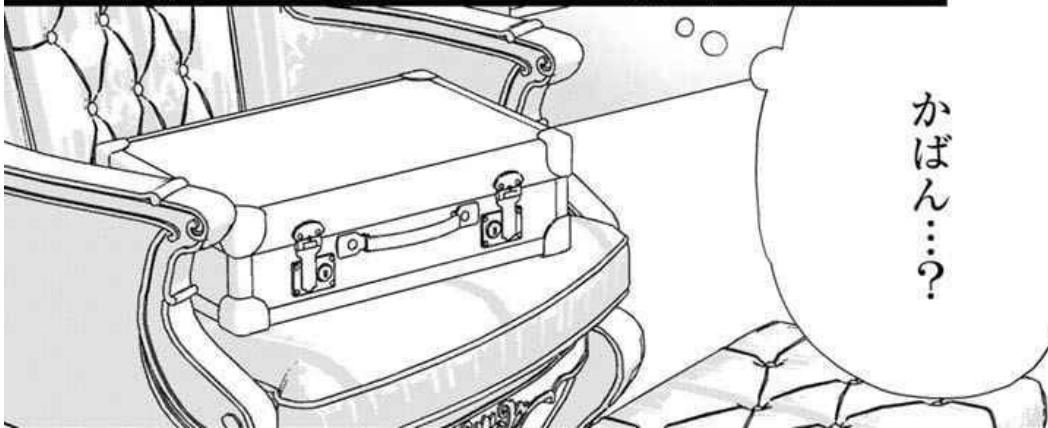
—な...



丸一日
離してもらえ
なかった…

長生きって
そういう意味じゃ
ないです——…ッ

行かないわね!!

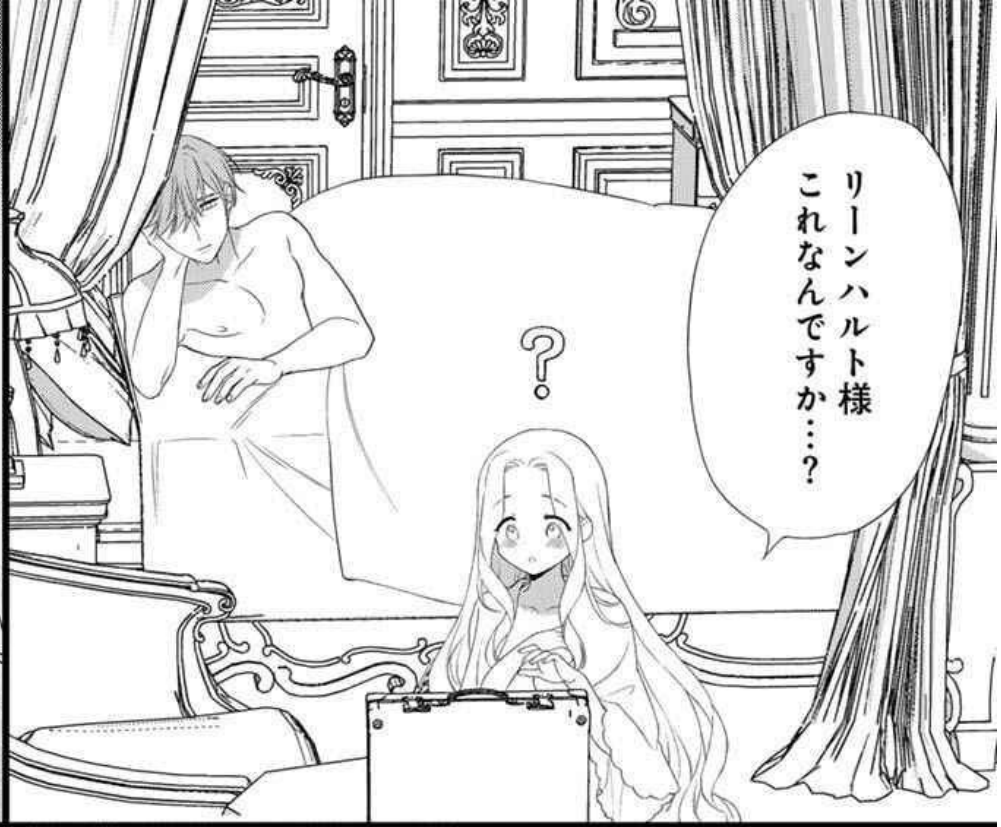


かばん…?





!?



リーンハルト様
これなんですか…？



リーンハルト様!?

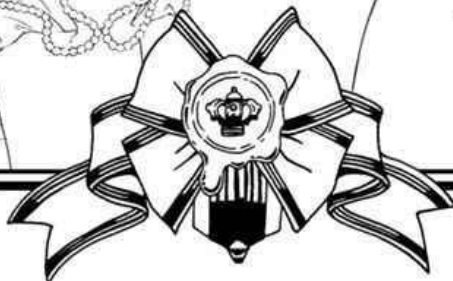
第6巻へつづく



あ
あの



休載イラスト



2024年3月掲載



書き下ろし小説

詰んでる元悪役令嬢と
守護者の円卓

うすいかつら



「ねえねえ、守護者会議をしようよ！」

「えっえっ!？」

突然、合法シヨタ様がわたしの部屋の中に現れて、そう言った。

本当に突然だ。合法シヨタ様は何もない空間に、突然現れた。

ふ、服を着ていてよかった……!

「え、ええと、ヴァイント様」

そして慌てたけれど、合法シヨタ様とは呼ばなかった。

セーフ……っ!

うっかり変な呼びかたをしないようにしなくては。変なことを言った時のヴァイント様の追及は、リーンハルト様よりも過酷な気がする。

「様だなんてつけなくていいよ! おんな

じ守護者だし!」

「そうそう、俺たちの仲で堅っ苦しいのはなしだぜ」

カレルさんまで窓から入ってきた!?

「えっ!? もう、おやつタイムですか!？」

待って、今日はまだカレルさん用のおやつは届いてない。

あわあわしながら侍女さんたちをチラ見すると、一人音もなく部屋から駆け出していくところだった。

おお……みんな静かに慌てている。

カレルさんも相変わらずで、ふらっと窓からやってきてはおやつを食べて去っていく。ちなみにカレルさんが来なかった日は、わたしと侍女さんたちの追加おやつとして消費される。

ご安心ください、スタッフが美味しくいただきます。

「いや、メシ食いに来たんじゃないんだよ。こいつに、ついてこいつて言われてさ」

こいつ……が指している先はヴァイント様だった。それではヴァイント様がカレルさんを連れてきた理由とは……？

「……なんのご用でしょう」

「さっき言ったよー！ 守護者会議をしようよ」

「守護者会議というの？」

守護者は会議するものなんだろうか。

「ほら、守護者って数が少ないじゃん？

それに自分の縄張りから出てこないんだよね。で、会議って大勢でするものでしょ？

少なくとも二人じゃ会議じゃないよね」

二人だと議論？ ともあれヴァイント様が

言いたいのは、今までこの国には守護精霊と守護獣の二人しかいなかったから会議が成立しなかった……ということだ。

「お嫁ちゃんが入ったことで三人になったから、会議ができると思うんだ!!」

なるほど……!!

つまり、なにか話し合うべきことがあるんじゃないかって、人数が増えたから会議がしたいんですね。

わたしがこの世界で『加護を持つ守護者』

だというのは、まだピンとこない。けれど、

この世界のルールが「他の精神体が人の体に入ったら守護者になる」というものらしいので、それならそうですね……という感じだ。

「皆様、お座りになられてはいかがでしょうか」

そこへ音もなくエラさんが近づいてきた。

「会議ならば、円卓をご用意いたします」

円卓!? と振り返ったら、既にティーテーブルが用意されようとしていた。素早い。

いや、しかしそれは確かに丸いテーブルだけど、会議用の円卓とは違うと思います。

「じゃあ、座ろっか!」

でも二人とも細かいことは気にしないで、ティーテーブル……円卓へ向かった。わたしもそれを追いかける。

三人着席したら、お茶とお茶菓子が配

置された。お茶菓子は常備品だ。

「あつ、このお菓子、美味しー!」

「そうそう、この菓子、美味いんだよな」

お二人とも、このお城に住み着いているキャリアはかなり長いと思うんですが、他所でお菓子は召し上がらないんでしょうか。王太子妃のおやつだから、バターもたっぷりで贅沢に美味しく作られているのは確かですが。

「こちらもどうぞ、お召し上がりください」

二人が焼き菓子をパクついている間に、いつものカレルさん用軽食が大盛りでテーブルに置かれた。

もう届いたのか……厨房まで知らせに

いった侍女さんが全速力で往復したんだ
ろうから、あとで労ってあげなくては。

しかし侍女さんの業務に足の速さが必
要だったとは、今日まで知らなかった。
みんなお嬢様だと思っていたのに。走り
込みとかしてるんだらうか。

「これも美味しいね」

「そうだろ？」

しかし美味しいと喜んでくれるのは嬉
しいけれど、いつもなにを食べているの
か気になる。守護精霊と守護獣ってこの
国のすぐく偉い人に分類されると思うん
だけど、食事は意外に質素なんだろうか。
「いつも食べているものは、そんなに美
味しくないんですか？」

「僕、普段、食事しないんだよね」

しまった、人外でしたね……。

「食べられるけど、意味はないんだよ」

「お供え物とかないんですか？」

言ってから『お供え』はまずかったか
なとちらつと思っただけど、ヴィント様は
笑って答えた。

「あるある！ たまにそういうのをつま
み食いはするかな」

あ、やっぱりあるんだ。そして、お供
えをつまみ食いするんだ。お供えが減っ
ていたら、供えた人は嬉しいかも。

「俺は食うぜ！ 食わなくても二十年く
らいは大丈夫だったけどな。なんか食べ
たい時には厨房に行ってねだったりとか
する。まかない美味しいよな」

カレルさんは、まかないを横取りして

いる……！ カレルさんが来ると思っていれば、まかないもたくさん用意しているのかな。

「あと、町中の屋台に食べに行く」

おお……！ 食べ歩き！ 普通に羨ましい。

「前にちよっと国内回ってきただろ？」

それで、色々屋台のメシが美味くてさあ。金は払えよってリーンハルトから小銭もらったから、それで今も時々食べに行ってる」

「いいですね、屋台……屋台ならではの味がありますよね」

「そうなんだよな、お上品なメシより美味く感じるよな。今度、土産に持ってきてやるよ」

「はい！」

屋台のお土産は楽しみだ。

そして、二人にとって王太子妃の部屋のおやつが美味しく感じる理由も理解できた。比較の相手が『お供え』と『まかない』と『屋台ごはん』なら、わたし用のおやつはそれよりきつと贅沢な材料を使って作られている。でも『お供え』と『まかない』と『屋台ごはん』からしか得られない美味しさがあるのも、わかる。そんな話をしながらお菓子と軽食をみんなでつまみ、お茶を飲んだ。食べている間は話をしなくて済むからだ。しかしずっと食べてはいられない。

「それで、会議はどんな……」

議題で話し合うんでしょう、と言おう

とした時だった。

「どんな会議をするというのだ？」

「！」

背後から肩を掴まれて、飛び上がった。

……お知らせがいったらろうとはわかってましたが、会議開始前に間に合いましたね……リーンハルト様。

そして接近に気がつかなかったのは、わたし一人だったようだ。

残り二人に驚いた様子はない。

「リーンハルトも入る？ 守護者会議だけど、リーンハルトなら入れてあげるよ」

「いや、守護者に並び立つ気はない」

ヴィント様が会議の仲間にリーンハルト様も誘ったけれど、リーンハルト様はわたしの背後から動かなかった。

「だが我が妻は知識が未熟ゆえ、助けが必要なこともあるだろう。その助けのために見守らせてほしい」

知識が未熟だとは普通だと失礼な言い草だけれど、わたしに関しては真実だ。この世界の仕組みとか、まだサツパリだし。守護者のことだって、この世界の人なら五つの子でも知っているらしいのに先日知ったばかりなもの。

でもリーンハルト様、このままずっと背後に立っているつもりでしょうか……。

なんか、回答をミスるとお仕置きになりそうな予感がします！

「そう？ じゃあ、それでいいよ。カレルもいいよね？」

「ああ」

ええええ……駄目って言ってほしい……

…。

「それじゃ、どうしようか」

「俺たちはクレスの守護者だしな、やっ

ぱりこの国の今後についての話だろ」

いや、そんな難しい話は勘弁していた

だきたいです……。

「じゃあ、リーンハルトとお嫁ちゃん

次の子どもがいつ生まれるかについてか

な」

いや、そんな難しい話は勘弁していた

だきたいです……!!

それは会議で話し合っても決まらない

ので！

§ § §

……一年後か二年後くらい？ という、

ふんわりした結論で守護者会議は終了し

た。

「やつらは言われる側のことを考えてお

らぬ」

そうですね……。

「なあ、アンナ」

「リーンハルト様……その……あのっ」

「どうした？」

言われる側のことを考えていないとい

うのには、深く深く同意します。リー

ンハルト様がその気になるまでの前座のプ

レイで、わたしがすつごく大変だってい

うことは考えられていないって。

焦らしプレイとか緊縛プレイとか羞恥

プレイとか……！

「リーンハルト様……」

今……わたしはいつものように縛られて……媚薬を使われて……円卓の上に乗せられています……。

「あの……っ」

室内には他に誰もいないけど。でも、あの人たち、突然現れるじゃないですか。寝室には踏み込まないという自制はあるらしいんですが、なら寝室以外の場所ですいているのは、もしかしてヤバいんじゃないかなって思うんです。

ねだったら、ここで突入してしまう。

でも、もう、限界で……。

そもそも、このまま我慢し続けたら、

このままの状態が続くんですよね？

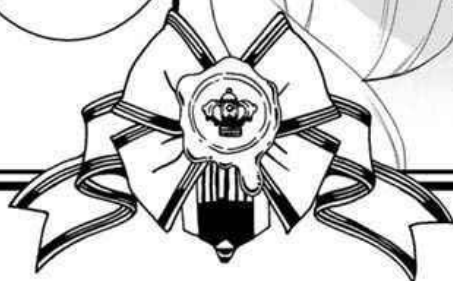
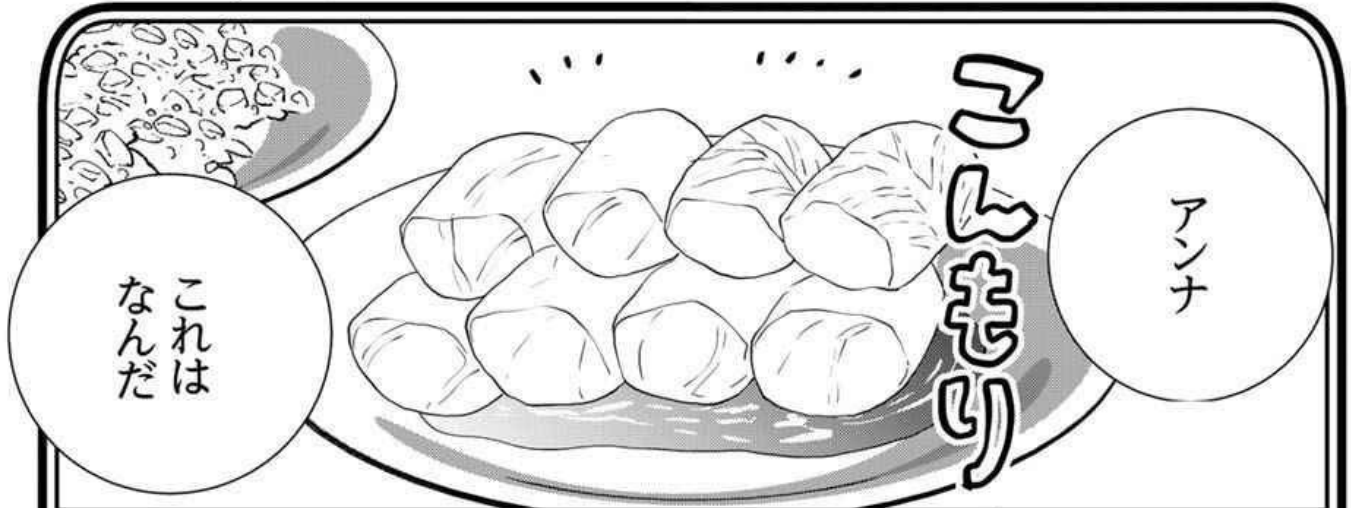
この格好も十分ヤバいですよね……!?

「言いたいことがあれば、素直に言うがよい」

素直におねだりしたら円卓の上で合体に突入してしまい、我慢し続けたら円卓の上で緊縛されたまま……!?

わたし……今、詰んでます……!?

。電子限定おまけ。





食後の
運動だ

えっ
えっ

カレー...

カレー

わん
わん
わん

わん
わん
わん



ふうー…
5巻では
何事もなく
終わった…

ほ…

フ…



…フ？
しし

よかつたな
漫画版で
小説版では
そなた…



えい
小説!?
え!?

しし
ん

小説版もヨロシクね。



詰んでる

5

元悪役令嬢は
DS王子様から
逃げ出したい





PIRZ COMICS
詰んでる元悪役令嬢は

ドS王子様から逃げ出したい

5

【原作】うすいかつら
【作画】かーみら

発行
幻冬舎
コミックス

息子・ヴェルンハルトが生まれ、
たまにお仕置きもありつつ、
リーンハルトの愛情に包まれて、
アンナはますます甘い日々を過ごしていた。
そんな中、アンナの『転生』の謎を解くきっかけとして、
ついに触手エルフことルシアン先生、
そして同じ『異世界転生者』であるアヤと
邂逅することに——！
*(元)悪役令嬢とドS王子の転生ラブロマンス、
いちやラブたっぷりの第5巻!!

〈初出〉

comicブースト2023.06～10、12～2024.01、03～04

バースコミックス

詰んでる元悪役令嬢は ドS王子様から逃げ出したい⑤

2024年6月24日 第1刷発行

著者

原作 うすいかつら

作画 かーみら

発行人

石原正康

発行元

株式会社 幻冬舎コミックス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6431

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製（デジタルデータ化も含みます）、放送、データ配信等を行うことは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

©うすいかつら・かーみら／幻冬舎コミックス 2024

ISBN978-4-344-85426-0 C9979 Printed in Japan

幻冬舎コミックスホームページ <https://www.gentosha-comics.net>

本作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには関係ありません。

デジタル版 発行日 2024年6月24日

製作所 株式会社 二葉企画

本電子書籍に記載のURL、メールアドレス等の情報は、デジタル版発行当時のものです。予告なく変更になる場合もございます。